

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	宮崎大学
設置者名	国立大学法人宮崎大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
教育学部	学校教育課程	夜・通信		21	0	45	13	
医学部	医学科	夜・通信		0	25	49	19	
	看護学科	夜・通信			18	42	13	
工学部	環境応用化学科	夜・通信		1	9	34	13	
	社会環境システム工学科	夜・通信			8	33	13	
	環境ロボティクス学科	夜・通信			4	29	13	
	機械設計システム工学科	夜・通信			7	32	13	
	電子物理工学科	夜・通信			4	29	13	
	電気システム工学科	夜・通信			4	29	13	
	情報システム工学科	夜・通信			19	44	13	
	工学科	夜・通信			0	0	24	13
農学部	植物生産環境科学科	夜・通信		2	10	36	13	
	森林緑地環境科学科	夜・通信			17	43	13	
	応用生物科学科	夜・通信			13	39	13	
	海洋生物環境学科	夜・通信			4	30	13	
	畜産草地科学科	夜・通信			4	30	13	

	獣医学科	夜・通信			44	70	19	
地域資源創成学部	地域資源創成学科	夜・通信	24	32	0	56	13	
(備考) 2020年度に工学部を改組し、新たに工学科を設置。 2020年度入学：工学科 ※編入生は除く 2019年度以前入学：環境応用化学科、社会環境システム工学科、環境ロノティクス工学科、機械設計システム工学科、電子物理工学科、電気システム工学科								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://webclass.eden.miyazaki-u.ac.jp/webclass/ip_mods.php/addon/miyazaki-u/plugin/syllabus/search
「実務経験のある教員等による授業科目」タブをクリック⇒「検索」

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	宮崎大学	
設置者名	国立大学法人宮崎大学	

1. 理事（役員）名簿の公表方法

http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/yakuinshoukai20201001.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	文部科学省職員	2018年4月1日～ 2021年9月30日	総務
非常勤	弁護士	2009年4月1日～ 2021年9月30日	法務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	宮崎大学
設置者名	国立大学法人宮崎大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>「シラバス作成のためのガイドライン(シラバス作成要領)」(平成29年12月18日宮崎大学教育委員会決定)に基づき、シラバスを作成している。授業開始前に、授業科目に関する基本情報、授業の目標に関する情報、授業内容・方法に関する情報、成績評価に関する情報、教材に関する情報、教員に関する情報、履修に関する情報を記載したものを作成し、学生に周知している。</p> <p>宮崎大学教育委員会は、年度毎に全授業科目について作成状況を点検し、すべての部局においてシラバス作成率が100%になるよう厳密に管理している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://wakaba3.of.miyazaki-u.ac.jp/campusweb/slbssrch.do
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>成績評価を受ける出席要件は、授業回数の75%以上(医学部では3分の2以上)としている。成績評価基準と成績評価方法は、キャンパスガイド及びシラバスを通して学生に周知し、学期の初回の授業時にも説明している。シラバスに明記された成績評価基準・評価方法に従って、授業への取組状況、レポート、中間テスト、最終試験等の組み合わせにより成績評価を行い、単位を認定している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学の教育方針として、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）の点検・評価項目の一つに「GPA制度を導入し、教育の質保証に向けて点検・評価・改善を行う」と定めている。</p> <p>GPAの計算方法については、以下のとおりキャンパスガイドや大学のウェブサイトで公表している。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> $GP = (\text{成績素点} - 54.5) / 10$ <p>不合格（60点未満）の場合、GPはゼロとする。</p> $GPA = \Sigma (\text{科目のGP} \times \text{科目の単位数}) / \Sigma (\text{履修登録単位数})$ <p>Σは、各学期または累積の受講科目に関する合計を示す。</p> </div> <p>また、本学では、学生が学習・教育目標を高いレベルで達成するため、学修支援システムの一つである「学習カルテ：履修システム」にGPAを導入し、学生自ら自分のGPAを確認できるようにしている。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>http://www.miyazaki-u.ac.jp/cess/research/gpa_index.html</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>大学の教育理念に基づき、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を明確に定めている。</p> <p>卒業認定基準については学務規則に定めており、学長は卒業認定基準に従って各学部教授会の議を経て、卒業認定を行っている。学生にはキャンパスガイドで周知するとともにウェブサイトで公表している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	宮崎大学
設置者名	国立大学法人宮崎大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/finance/reporting.html
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/finance/reporting.html
監事による監査報告(書)	

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.of.miyazaki-u.ac.jp/~hyouka_web2/gakugai/new/jikotenken.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 教育学部小中一貫教育コース
<p>教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/）</p> <p>（概要）教育学部は、宮崎県教育委員会等との連携により、地域密接型を目指す宮崎大学の主要な学部として、義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を担うとともに、宮崎県における教育研究や社会貢献活動等を通じて我が国の教育の発展・向上に寄与することを基本理念としています。この基本理念に基づき、以下の教育目的を掲げております。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員養成の観点から要求される専門的知識、専門的学力を身につけること 2. 様々な知識や技能を総合して、現代的課題を的確に判断し、解決する力を養うこと 3. 幅広い教養を身につけた豊かな人間性と道徳性、及び積極的意欲をもった主体性を育成すること 4. 国際感覚をもつとともに、地域の自然や文化や歴史を理解し、国際社会及び地域社会の発展に貢献しうる能力を育成すること
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html）</p> <p>（概要） 教育学部では、以下のような能力を卒業要件としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。 2. 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。 3. 相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 4. 課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。 5. 学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html）</p> <p>（概要） 【教育課程の編成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。 2. 基本的な学習能力を獲得できるように、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション、保健体育）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。 3. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。 4. 小学校・中学校・小中一貫校の教員としての知識と専門的能力および実践的指導力が身につくように、教育目標に即した専門科目群を、大きく基礎期、展開期、応用・統合期に分けて段階的に設置する。 5. 小学校・中学校・小中一貫校の教員として必要な使命感や倫理観、および生徒指導や学級経営等に関する確かな知識と指導方が身につくように、「教職に関する科目」を設置する。 6. 教科内容に関する確かな知識が身につくように、「教科に関する科目」を設置する。 7. 得意とする専攻分野の専門的知識が修得できるように、中学校の各教科の「教科に関する

る科目」を設置する。

8. 課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践力を向上できるように、「教育実習」「教職実践演習」や「卒業論文」等を設置する。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目のシラバスにおいて、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力が養われるように、講義、演習、実習あるいは実験などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行う。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

小中一貫教育コースでは、児童・生徒の長期にわたる発達過程を見通す見識、児童・生徒への深い理解力、教員としての使命感、責任感、教育的愛情を身につけた教員の養成を目標としています。

1. 求める学生像

小中一貫教育コースでは、小学校・中学校・小中一貫校の教員等を目指す教職への意欲にあふれ、教職に必要なたしかな知識・技能(以下、「知識・技能」)について研鑽を積み、教育課題を解決するために必要な思考力(以下、「思考力」)と児童・生徒への適確な指導に資する表現力(以下、「表現力」)と学校現場で生きる協調性(以下、「協調性」)をもち、それらをしっかりと身につけるべく一層の努力を怠らない人材を求めています。

2. 入学者選抜の基本方針

1) 一般選抜（前期日程・後期日程）

高等学校までに修得した基礎的学力と得意とする教科についての大学の学習で必要となる発展的学力について、大学入学共通テストと個別学力検査、面接によって、教職への意欲、「知識・技能」，「思考力」，「表現力」を総合的に判断します。

2)a 学校推薦型選抜（小学校主免専攻）

高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入学共通テストを課した上で、面接、推薦書・調査書・志望理由書によって多様な能力を総合的に判断します。

面接では教職への意欲，「思考力」，「表現力」，「協調性」について評価します。

<p>推薦書，調査書，志望理由書では教職への意欲，「知識・技能」，について評価します。</p> <p>2)b 学校推薦型選抜（中学校主免専攻，専門学科枠） 高等学校専門学科等での学業成績が優秀な者に対して，大学入学共通テストを課さないかわりに，面接，小論文，推薦書・調査書・志望理由書によって多様な能力を総合的に判断します。</p> <p>面接では教職への意欲，「知識・技能」，「協調性」について評価します。 小論文では教職への意欲，「思考力」，「表現力」について評価します。 推薦書，調査書，志望理由書では教職への意欲，「知識・技能」について評価します。</p> <p>3) a 総合型選抜（中学校主免専攻）英語・家庭 得意とする教科を有し，入学後もその教科を専修とすることを希望する者に対し，大学入学共通テストを課した上で，面接，各教科の定める個別審査，自己推薦書，志望理由書，実技・活動等に関する調書によって多様な能力を総合的に判断します。 大学入学共通テストでは「知識・技能」について評価します。 面接，自己推薦書，志望理由書及び実技・活動等に関する調書では教職への意欲，「知識・技能」，「思考力」，「表現力」，「協調性」について評価します。 各教科の定める個別審査では，「知識・技能」，「思考力」，「表現力」，「協調性」について評価します。</p> <p>3)b 総合型選抜（中学校主免専攻）音楽・美術・保体 得意とする教科を有し，入学後もその教科を専修とすることを希望する者に対し，大学入学共通テストを課さないかわりに，面接，小論文，各教科の定める個別審査，自己推薦書，志望理由書，実技・活動等に関する調書によって多様な能力を総合的に判断します。 面接，自己推薦書，志望理由書及び実技・活動等に関する調書では教職への意欲，「知識・技能」，「思考力」，「表現力」，「協調性」について評価します。 各教科の定める個別審査では，「知識・技能」，「思考力」，「表現力」，「協調性」について評価します。</p> <p>4) 帰国生徒選抜 帰国生徒に対し，小論文，面接によって教職への意欲，「知識・技能」，「思考力」，「表現力」，「協調性」を評価します。</p> <p>3. 入学までに身に付けてほしいこと 高等学校で履修した国語，地理歴史，公民，数学，理科，外国語などの科目に関する基礎学力を十分に身につけると同時に，「思考力」，「表現力」，「協調性」など，大学での学修の効果を高め，充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身につけておくことが望まれます。</p>
--

<p>学部等名 教育学部教職実践基礎コース</p> <p>教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ）</p> <p>（概要） 教育学部は、宮崎県教育委員会等との連携により、地域密接型を目指す宮崎大学の主要な学部として、義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を担うとともに、宮崎県における教育研究や社会貢献活動等を通じて我が国の教育の発展・向上に寄与することを基本理念としています。この基本理念に基づき、以下の教育目的を掲げております。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員養成の観点から要求される専門的知識、専門的学力を身につけること 2. 様々な知識や技能を総合して、現代的課題を的確に判断し、解決する力を養うこと 3. 幅広い教養を身につけた豊かな人間性と道徳性、及び積極的意欲をもった主体性を育成すること 4. 国際感覚をもつとともに、地域の自然や文化や歴史を理解し、国際社会及び地域社会の発展に貢献しうる能力を育成すること <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：</p>
--

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

(概要)

教育学部では、以下のような能力を卒業要件としている。

1. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。
2. 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
3. 相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
4. 課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。
5. 学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

(概要)

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力を獲得できるように、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション、保健体育）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
4. 学校の教員に必要な知識と専門的能力および実践的指導力が身につくように、教育目標に即した専門科目群を、大きく基礎期、展開期、応用・統合期に分けて段階的に設置する。
5. 学校の教員に必要な使命感や倫理観、および生徒指導や学級経営等に関する確かな知識と指導法が身につくように、「教職に関する科目」を設置する。また、現代の教育課題に対応できる高度な実践力を身につけ、地域や学校における指導的役割を果たし得る基礎的な資質・能力を身に付けるため、教職大学院までの6年間を見通した、「教職実践基礎コース専門教育科目」として「教職に関する科目」の中に設置する。
6. 教科内容に関する確かな知識と指導法が身につくように、「教科に関する科目」「教職に関する科目」を設置する。
7. 得意とする専攻分野の専門的知識が修得できるように、中学校の各教科の「教科に関する科目」を設置する。
8. 課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践力を向上できるように、「教育実習」「教職実践演習」や「卒業論文」等を設置する。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目のシラバスにおいて、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力が養われるように、講義、演習、実習あるいは実験などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行う。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

教職実践基礎コースでは、幼児期から青年期にわたる長期の発達過程を見通した上で、幼稚園・小学校・中学校・小中一貫校に共通する教職に関する高い専門性を持ち、現代の教育課題に多角的に対応できる教員の養成を目標としています。

1. 求める学生像

教職実践基礎コースでは幼稚園・小学校・中学校・小中一貫校における教育に対して熱意を持って取り組み、教科全般に関わる基礎学力、また、得意とする分野の学力や技能（以下、「知識・技能」）を有し、これらを教育実践に活用しようとする教職への意欲を持っている人、現代の教育課題に対応するために、幅広い学問や文化を意欲的に学び、広い視野を身につけ、それを幼児教育・初等教育・中学校教育・小中一貫教育に生かす思考力・表現力（以下、「思考力・表現力」）を持っている人、また、学び続ける喜びを幼児・児童・生徒と共有したいと考え、宮崎県をはじめとする地域に根ざす学校づくりの有力な一員となる協調性（以下、「協調性」）を持っている人を求めています。

2. 入学者選抜の基本方針

1) 一般選抜（前期日程）

高等学校までに修得した基礎的学力と得意とする教科についての大学の学修で必要となる発展的学力について、大学入学共通テストと個別学力検査によって、「知識・技能」、「思考力」、「表現力」を総合的に判断します。

2) 学校推薦型選抜

高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入学共通を免除する代わりに、面接、小論文及び出願書類（推薦書、調査書及び志望理由書）によって、宮崎県の教員をめざし、地域に根ざす学校づくりの有力な一員となる意欲と、現代の教育課題に対応するために他者と協力して課題解決しようとする意欲を持つ人を受け入れるために、多様な能力を総合的に判断します。

面接では「協調性」、教職への意欲について評価します。

小論文では「思考力」、「表現力」について評価します。

推薦書・調査書では「知識・技能」、「思考力」、「協調性」、教職への意欲について評価します。

志望理由書では「表現力」、教職への意欲について評価します。

3) 帰国生徒選抜

帰国生徒に対し、小論文、面接によって「思考力」、「表現力」、「協調性」、教職への意欲を評価します。

3. 入学までに身に付けてほしいこと

高等学校で履修した国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などの科目に関する基礎学力を十分に身につけると同時に、「思考力」、「表現力」、「協調性」など、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身につけておくことが望まれます。

学部等名 教育学部発達支援教育コース子ども理解専攻

教育研究上の目的（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/>)

（概要）

教育学部は、宮崎県教育委員会等との連携により、地域密接型を目指す宮崎大学の主要な学部として、義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を担うとともに、宮崎県における教育研究や社会貢献活動等を通じて我が国の教育の発展・向上に寄与することを基本理念としています。この基本理念に基づき、以下の教育目的を掲げております。

1. 1. 教員養成の観点から要求される専門的知識、専門的学力を身につけること
2. 様々な知識や技能を総合して、現代的課題を的確に判断し、解決する力を養うこと
3. 幅広い教養を身につけた豊かな人間性と道徳性、及び積極的意欲をもった主体性を育成すること
4. 国際感覚をもつとともに、地域の自然や文化や歴史を理解し、国際社会及び地域社会の発展に貢献しうる能力を育成すること

卒業の認定に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

教育学部では、以下のような能力を卒業要件としている。

1. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。
2. 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
3. 相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
4. 課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。
5. 学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力を獲得できるように、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション、保健体育）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
4. 小学校、幼稚園・認定子ども園の教員としての知識と専門的能力および実践的指導力が身につくように、教育目標に即した専門科目群を、大きく基礎期、展開期、応用・統合期に分けて段階的に設置する。
5. 小学校の教員として必要な使命感や倫理観、および生徒指導や学級経営等に関する確かな知識と教科に関する指導法が身につくように、「教職に関する科目」を設置する。また、子どもと子どもをとりまく大人の心理や行動に対する省察や、問題の予防や対処

のための専門的な知識や技能が身につくように、「教職に関する科目」として子ども理解に関する科目を設置する。

6. 小学校の教科内容に関する知識が身につくように、「教科に関する科目」を設置する。
7. 幼稚園・認定子ども園の教員として必要な使命感や倫理観、および幼稚園教育に関する確かな知識と指導法が身につくように「保育内容の指導法」等設置する。
8. 課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践力を向上できるように、「教育実習」「教職実践演習」や「卒業論文」等を設置する。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目のシラバスにおいて、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力が養われるように、講義、演習、実習あるいは実験などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行う。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

子ども理解専攻では、幼児期から児童思春期にわたる子どもの心理、発達過程を見通す深い見識と理解力、教員としての使命感、責任感、教育的愛情を身につけた教員の養成を目的としています。

1. 求める学生像

子ども理解専攻では、幼児期から児童思春期の子どもの教育に対する意欲にあふれ、(教職に必要なたしかな知識・技能(以下、「知識・技能」))について研鑽を積み、(目標に向けて強い意志と行動を貫くことができる思考力・主体性(以下、「思考力・主体性」))と(児童・生徒への適確な指導に資する表現力(以下、「表現力」))と(学校現場で子どもと保護者と信頼関係を築き、同僚と協力して問題に取り組んでいける対人関係能力(以下、「協調性」))を身につけるための努力を怠らない人材を求めています。

2. 入学者選抜の基本方針

1) 一般選抜（前期日程）

高等学校までに修得した基礎的学力と得意とする教科についての大学の学習で必要となる発展的学力について、大学入学共通テスト、個別学力検査、面接によって、「知識・技

<p>能」，「思考力・主体性」，「表現力」，「協調性」，教職への意欲を総合的に判断します。</p> <p>大学入学共通テストと個別学力検査では，「知識・技能」，「思考力」について評価します。</p> <p>面接では，「知識・技能」，「思考力・主体性」，「表現力」，「協調性」，教職への意欲について評価します。</p> <p>2) 学校推薦型選抜</p> <p>高等学校での学業成績が優秀な者に対して，大学入学共通テストを課した上で，面接，推薦書・調査書・志望理由書によって多様な能力を総合的に判断します。</p> <p>面接では「思考力・主体性」，「協調性」，「表現力」，教職への意欲について評価します。</p> <p>推薦書・調査書では「知識・技能」，教職への意欲について評価します。</p> <p>志望理由書では「表現力」，教職への意欲について評価します。</p> <p>3) 帰国生徒選抜</p> <p>帰国生徒に対し，小論文，面接によって「思考力・主体性」，「表現力」，「協調性」，教職への意欲を評価します。</p> <p>3. 入学までに身に付けてほしいこと</p> <p>高等学校で履修した国語，地理歴史，公民，数学，理科，外国語などの科目に関する基礎学力を十分身につけておくことが望まれます。また，「思考力・主体性」，「協調性」など，大学での学習の効果を高め，充実した学生生活を送るために必要な対人コミュニケーション能力を身につけておくことが望まれます。</p>
--

<p>学部等名 教育学部発達支援教育コース特別支援教育専攻</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/）</p>
<p>（概要）</p> <p>教育学部は、宮崎県教育委員会等との連携により、地域密接型を目指す宮崎大学の主要な学部として、義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を担うとともに、宮崎県における教育研究や社会貢献活動等を通じて我が国の教育の発展・向上に寄与することを基本理念としています。この基本理念に基づき、以下の教育目的を掲げております。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員養成の観点から要求される専門的知識、専門的学力を身につけること 2. 様々な知識や技能を総合して、現代的課題を的確に判断し、解決する力を養うこと 3. 幅広い教養を身につけた豊かな人間性と道徳性、及び積極的意欲をもった主体性を育成すること 4. 国際感覚をもつとともに、地域の自然や文化や歴史を理解し、国際社会及び地域社会の発展に貢献しうる能力を育成すること
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>教育学部では、以下のような能力を卒業要件としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。 2. 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。 3. 相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 4. 課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。 5. 学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html）</p>

(概要)

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力を獲得できるように、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション、保健体育）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
4. 特別支援教育に携わる教員に必要な知識と専門的能力および実践的指導力が身につくように、教育目標に即した専門科目群を大きく基礎期、展開期、応用・統合期に分けて段階的に設置する。
5. 学校の教員として必要な使命感や倫理観、および生徒指導や学級経営等に関する確かな知識と指導法が身につくように、「教職に関する科目」を設置する。
6. 教科内容に関する確かな知識が身につくように、「教科に関する科目」を設置する。
7. 特別支援教育に関する確かな知識と指導法が身につくように、「特別支援教育に関する科目」を設置する。
8. 課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践力を向上できるように、「教育実習」「教職実践演習」や「卒業論文」等を設置する。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目のシラバスにおいて、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力が養われるように、講義、演習、実習あるいは実験などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行う。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html>)

(概要)

特別支援教育専攻では、障害のある児童・生徒それぞれの発達や特徴を捉える見識と深い児童理解力を持って初等教育を施すことができ、その上で障害に基づく種々の課題や困難を改善または克服するのに必要な知識、技能、態度及び習慣を養うための指導ができる特別支援学校教員の養成を目的としています。

1. 求める学生像

特別支援教育専攻では「特別支援教育に対する意欲を持って取り組み、「特別支援教育に関する学修に十分対応できる基礎学力や基礎技能（以下、「知識・技能」）」を有し、「目標達成に向けて強い意志と行動を貫くことができる思考力・表現力（以下、「思考力・表現力」）」、「愛情豊かに他者を思いやることのできる協調性（以下、「協調性」）」を持つ人、また、「学修を通して獲得した知識・技能・行動力を教育現場に還元するための粘り強く創意工夫する力や向上心（以下、「創意工夫・向上心」）」を有している人材を求めています。

2. 入学者選抜の基本方針

1) 一般選抜（前期日程）

高等学校までに修得した基礎的学力と特別支援教育に関する大学での学修で必要となる発展的学力について、大学入学共通テスト、個別学力検査、面接によって、「特別支援教育に対する意欲」、「知識・技能」、「思考力・表現力」、「協調性」、「創意工夫・向上心」を総合的に判断します。

大学入学共通テスト及び個別学力検査では、「知識・技能」、「思考力・表現力」について評価します。

面接では、「特別支援教育に対する意欲」、「思考力・表現力」、「協調性」、「創意工夫・向上心」について評価します。

2) 学校推薦型選抜

高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入学共通テストを課さず、小論文、面接、推薦書・調査書によって多様な能力を総合的に判断します。

小論文では、「知識・技能」、「思考力・表現力」について評価します。

面接では、「特別支援教育に対する意欲」、「思考力・表現力」、「協調性」、「創意工夫・向上心」について評価します。

推薦書・調査書では、「特別支援教育に対する意欲」、「知識・技能」について評価します。

3) 帰国生徒選抜

帰国生徒に対して、小論文、面接によって、「特別支援教育に対する意欲」、「知識・技能」、「思考力・表現力」、「協調性」、「創意工夫・向上心」を総合的に判断します。

3. 入学までに身に付けてほしいこと

高等学校で履修した国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などの科目に関する基礎的学力を十分身に付けておくことが望まれます。また、「協調性」など、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望まれます。

学部等名 医学部医学科
<p>教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ）</p>
<p>（概要）</p> <p>医学部は、昭和 49 年国の無医大県解消施策・一県一医大構想のもとに設立された宮崎医科大学を前身とし、平成 15 年 10 月の統合により、その 29 年の歴史を終え宮崎大学医学部となりました。本学部の使命は「地域における医学・医療の中心的な役割を果たすと同時に、進歩した 医学・看護学を修得せしめ、人命尊重を第一義とし、医の倫理に徹した人格高潔な医師、医学者、看護職者及び看護学研究者を育成し、国内外の医学及び看護学の水準向上と社会福祉に貢献すること」を使命としています。</p> <p>さらに医学科は、宮崎の地域医療に貢献でき、国際的にも活躍できる優れた医師及び医学研究者の育成を目指しています。本学科の卒業生は、医師として、医学研究者として、あるいは医学教育者として幅広い分野で活躍し、医学の発展と社会福祉の向上に貢献しています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）</p>
<p>（概要）</p> <p>宮崎大学医学部医学科では、以下の素養を身に付けるとともに、所定の期間在籍し、基準となる単位を修得した学生に、卒業を認定し、学位(学士号)を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会に貢献できる医療人として、豊かな人間性を持ち、謙虚な心で、人命尊重、的確な判断力、実行力を備え、義務と権利を適正に行使できる。 2. 自ら学修計画を立て、主体的に学び、自己研鑽し、最新の医学の知識を生涯にわたって学修することができる。 3. 教育によって身に付けた医学の知識や新たな知見を複眼的、論理的に分析するとともに、課題を認識し医療の進歩に貢献できる。 4. 相手の伝えたいことを的確に理解し、自己を表現でき、他職種と連携してチーム医療を実践できる。 5. 医学を学ぶ機会が得られたことへの感謝の心とプロフェッショナルとしての自覚を持ち、教育で得た知識、技能によって地域医療に貢献できるとともに、グローバルにも活躍できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）</p>
<p>（概要）</p> <p>医学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。</p> <p>【教育課程の編成】</p> <p>以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。本教育課程は、6年間を通して、本学科が教育目標とする「進歩した医学を修得せしめ、人命尊重を第一義とし、医の倫理に徹した人格高潔で、社会の多様なニーズに対して広い視野をもって医学を実践できる資質の高い医師、並びに医学研究者を育成する」を体現化するよう体系化され、基礎から専門へ、経年的に知識・技術が積み重ねられるように基礎科目、専門科目を設定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育科目は基礎科目である基礎教育科目、専門科目である専門基礎科目、基礎医学科目、臨床医学科目に大別されます。基礎教育科目には、大学人、社会人としての教養と専門教育の基礎的知識と基本的な学習能力を獲得するために、すべての学生が履修する全学共通カリキュラムとして、導入科目と課題発見科目が設定されています。学生の主体性が発揮できるように、また、医学を学ぶために必要な幅広い知識、教養、豊かな人間性と情操の育成のために多くの科目を設定しています。 2. 専門基礎科目と基礎医学科目は、医学の基礎となる教育内容に重点をおいた授業科目

で、1年次から4年次に開設されます。また、最新の医療トピックにも関心がもてるように授業内容を工夫しています。

3. 臨床医学科目は、臨床医として望ましい態度・価値観と必要とされる知識・技術を身につけさせることを目的として、3年次後期から6年次に臨床実習教育を含めて開設されます。4年次の臨床実習前には、診断学実習において、臨床医として望ましい態度や価値観を早期に身に付けさせる教育を行い、また、本学科の進級試験の他に全国共通の「共用試験」が課せられ、臨床実習を行うために必要不可欠な知識・技能・態度が修得できているかについて、厳正・公正な評価を行っています。
4. 臨床実習教育は臨床医として望ましい態度や価値観を早期に身につけさせることを目的として開設されます。4年次後期から5年次前期のクリニカル・クラークシップⅠは、本学附属病院の各診療科をローテーションで回り、5年次後期から6年次前期のクリニカル・クラークシップⅡでは、学内診療科及び学外医療機関で、共に少人数グループを重視した臨床参加型実習として行われています。地域医療を含め豊富な症例に接することにより臨床経験の幅を広くし、充実した臨床実習を行うため、本学附属病院のほか、県立宮崎病院などの学外の関連教育病院と連携協力し、臨床実習教育を行っています。
5. これとは別に医学生としての自覚を早期に促すことを目的として、1年次、2年次に学内・学外で医療と介護の体験実習を行います。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、ディプロマ・ポリシーに従い、到達目標、授業計画、成績評価基準、学習方法を明示し、周知します。
2. 基礎教育カリキュラムでの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるよう指導します。
3. 専門教育において、知識・技能、理論・実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習等の多様な教育方法を取り入れます。
4. 学士課程において、地域の理解を深めるため、学外での実習等を取り入れ、地域の課題を理解し、対応できるように教育します。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表します。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行います。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析します。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価します。
5. GPA制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行います。
6. 学生が学修目標の達成状況を、エビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

(概要)

医学科では、臨床医、医学研究者、あるいは医学教育者として宮崎の地域医療に貢献し国際的にも活躍できる、優れた人材の育成を目標としています。

1. 求める学生像

医学科では、自ら課題を見つけ解決しようとする探求心と意欲、行動力（主体性・学問への関心）を有し、医学と医療を学ぶために必要な幅広い基礎学力・応用能力（知識・技能）と他者と協調・共感できる豊かな人間性（協調性・思考力・表現力）を持つ人、また、

学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる人材を求めています。

2. 入学者選抜の基本方針

1) 一般選抜（前期日程・後期日程）

高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目及び英語など大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・技能、思考力、表現力を総合的に評価します。

面接では主体性、協調性、学問への関心について評価します。

2) 学校推薦型選抜

高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験及び面接によって多様な能力を総合的に判断します。

高等学校までに修得した基礎的な学力など理数系科目及び英語など大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験によって知識・技能を評価します。

面接では主体性、協調性、学問への関心について評価します。

3) 私費外国人留学生入試

外国人留学生に対し、面接、日本留学試験、個別学力検査によって、知識・技能、思考力、表現力、主体性、協調性、学問への関心を評価します。

3. 入学までに身に付けてほしいこと

高校で履修した科目に関する基礎学力について十分な深達度を得ていることが望まれる。さらに、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身につけておくことが望まれる。

学部等名 医学部看護学科

教育研究上の目的（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/>)

（概要）

医学部看護学科は昭和 49 年に設立された宮崎医科大学が前身であり、平成 13 年に併設されました。平成 15 年 10 月年に旧宮崎大学と統合して、宮崎大学医学部看護学科として、現在まで多くの優秀な医療人・医学研究者を世に送り出しています。わたくしたちは、日頃から統合後の新生宮崎大学のスローガンである『世界を視野に地域から始めよう』のもと、地域社会はもとより広く世界に通用する医療人、医学研究者の育成を目指しています。看護学科の卒業生は、人間性豊かな看護師、保健師、または助産師として人々の健康への援助を実践し、看護学の発展ならびに社会福祉に貢献しています。

卒業の認定に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

宮崎大学医学部看護学科では、以下の素養を身に付けるとともに、所定の期間在籍し、基準となる単位を修得した学生に、卒業を認定し、学位(学士号)を授与します。

1. 社会に貢献できる医療人として、豊かな人間性を持ち、謙虚な心で、人命尊重、的確な判断力、実行力を備え、義務と権利を適正に行使できる。
2. 自ら学修計画を立て、主体的に学び、自己研鑽し、最新の看護学の知識を生涯にわたって学修することができる。
3. 教育によって身に付けた看護学の知識や新たな知見を複眼的、論理的に分析するとともに課題を認識し医療の進歩に貢献できる。
4. 相手の伝えたいことを的確に理解し、自己を表現でき、他職種と連携してチーム医療を実践できる。
5. 看護学を学ぶ機会が得られたことへの感謝の心とプロフェッショナルとしての自覚を持ち、教育で得た知識、技能によって地域医療に貢献できるとともに、グローバルにも

活躍できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

看護学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

1. 本教育課程は、4年間を通して、本学科の目標とする「情操豊かな人間性と生命尊厳への畏敬の心をもった看護専門職」を育成するように体系化しています。基礎から専門へ、経年的に知識・技術が積み重ねられるように基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目を設定しています。
2. 基礎教育科目は大学人としての教養と専門教育の基礎知識と基本的な学習能力を獲得するために、すべての学生が履修する全学共通カリキュラムとして、導入科目、課題発見科目、学士力発展科目が設定されています。学生の主体性が発揮できるように、また、看護学を学ぶために必要な幅広い知識と教養と、豊かな人間性と情操の育成のために多くの科目を設定しています。
3. 専門基礎科目は、人間理解、健康と疾病理解、保健社会の仕組みの理解を主軸に構成しています。そして最新の医療トピックにも関心が持てるよう授業内容を工夫しています。
4. 専門科目は、基礎教育科目、専門基礎科目を基盤としたうえで、基礎看護学分野、成人・老年看護学分野、小児・母性看護学分野、地域・精神看護学分野を設定しています。また、実践能力や課題解決能力を高め、国際的視野を育む統合分野を、主体的に専門性を深める発展分野を設定しています。
5. 看護学は対象の健康ニーズへの援助を行う実践の科学です。したがって、看護を理解し実践力を培うためには、学内における基礎的な学習を基盤にした段階的実習で、適切な指導のもとで看護を実践し評価していくことが必要です。そのために1、2年次に基礎看護学実習を、3年次に看護専門領域実習を、さらに4年次に既存の学びを統合し、主体的に看護が実践できる総合実習を設定しています。
6. 公衆衛生・産業・学校等における看護の学びを深められるよう、公衆衛生看護学分野を選択科目として設定しています。
7. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、地域の理解と課題解決に取り組む科目を設定しています。
8. 養護教諭二種免許（保健師免許取得後）を申請できるように、基礎教育科目に教育免許法施行規則に定められた科目を設定しています。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、ディプロマ・ポリシーに従い、到達目標、授業計画、成績評価基準、学習方法を明示し、周知します。
2. 基礎教育カリキュラムでの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・技能、理論・実践を融合し、主体的に考える力を養うために講義、演習、実験、実習等の多様な教育方法を取り入れた指導を行います。
4. 学内の講義・演習の学びを臨地実習で統合実践し、看護学生として対象者に学び、成長できる支援体制を整備し、教育・指導を行います。
5. 学士課程において、地域の理解を深めるため、学外での実習等を取り入れ、地域の課題を理解し、対応できるように教育します。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表します。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行います。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析します。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価します。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行います。
6. 学生が学修目標の達成状況を、エビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

看護学科では、看護による健康への支援を通して、社会と地域の保健医療に貢献できる人材の育成を目標としています。

1. 求める学生像

看護学科では看護職者になろうという目的意識と看護学を学ぶために必要な基礎学力（知識・技能）を有し、生活している人々の身体的・精神的健康への関心（学問への関心）、自ら課題を見つけ解決しようとする意欲と行動力（主体性・多様性）、他者への共感と円滑なコミュニケーション能力（協調性・思考力・表現力）を持つ人、また、学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる学習意欲の高い人材を求めています。

2. 入学選抜の基本方針

1) 一般選抜（前期日程・後期日程）

高等学校までに修得した基礎的な学力と大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・技能、思考力、表現力を総合的に評価します。

面接では主体性、協調性・思考力・表現力、学問への関心について評価します。

後期日程で課す小論文では提示する課題を読解し、自己の見解をまとめ論理的に表現できるかどうかを評価します。それによって、思考力、表現力、主体性・多様性について評価します。

2) 学校推薦型選抜

高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を免除するかわりに、面接及び小論文によって多様な能力を総合的に判断します。

面接では主体性、協調性・思考力・表現力、学問への関心について評価します。

小論文では提示する課題についてまとめ、それを論理的に表現できるかどうかを評価します。それによって、思考力、表現力、主体性・多様性について評価します。

3. 入学までに身に付けてほしいこと

入試科目として課しているかどうかにかかわらず国語、地歴・公民、数学、理科、外国語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、主体性、コミュニケーション能力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望ましい。

また、国際化の時代にあって、海外から看護の知識を導入し、わが国の看護の成果を発信していくためにも国際語である英語を学習する必要がある。

学部等名 工学部環境応用化学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ）
（概要） 環境応用化学科は、化学における基本原理の探求から先端技術開発にわたる学術研究を通じて、人類が解決しなければならない課題に対する化学の役割と使命を果たすために環境応用化学を設置します。これによって、地球環境や生態系を保全する物質・資源・エネルギーの製造及び循環プロセスに関する知・技の創造と継承を図り、それに関わる人材育成を目指しています。
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）
（概要） 工学部では、以下のような能力を卒業要件としている。 1. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。 2. 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。 3. 相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 4. 課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。 5. 学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）
（概要） 環境応用化学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。
【教育課程の編成】 1. 基本的な学習能力の獲得のための基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション、専門基礎）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）および学士力発展科目を設置します。 2. 工学技術者として求められる工学の基礎や倫理観を学ぶために、工学基礎科目を設置します。 3. 応用化学技術者として必要な基礎および応用知識を体系的に学ぶために、実験科目を含めた学科専門科目を教育目標に即し段階的に設置します。 4. 自主的、継続的な学習により知識や技術を高め、それらを課題の探求と解決に生かし、成果を正しく伝える能力を育成するために、卒業研究等の科目を設置します。
【教育方法・内容】 1. 各授業科目について、シラバスで到達目標、授業計画、成績評価基準・方法を明確にし、周知します。 2. 問題解決能力、デザイン能力、コミュニケーション能力等を育成するために、問題発見、問題解決、チームワーク、発表・質疑討論等を含むアクティブラーニングを積極的に取り入れた授業形態による指導を行います。 3. 学士課程教育において、地域の理解を深める課題を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにします。

【点検・評価】

1. GPA 制度を導入し、教育の質保証に向けて点検・評価を行います。
2. 学科科目の試験答案を返却し、“学習・教育目標達成度自己点検”を学生自ら記入させて、学習・教育目標に対する達成度と今後の学習計画を点検させます。
3. 成績評価基準、方法に基づき多様な評価方法を用いて厳格な評価を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

（1）求める学生像

環境応用化学科では、企業等で実践力を有する工学専門職としてグローバルに活躍できる技術者の育成を教育の目標に掲げ、学士課程を通じて以下の資質や能力を身に付けた人材の育成を行います。

- 1) 自然との共生、環境との調和および社会への貢献の視点を持ち、社会的責任感と科学的倫理観をもって物事を判断する能力
- 2) 産業界で技術者として活躍するために必要な工学および化学の基礎を習得し、実験や観察の結果を考察でき、問題解決に柔軟に応用する能力
- 3) 自主的、継続的な学習により知識や技術を高め、それらを課題の探求と解決に生かし、正しく明瞭にまとめ伝える能力

そこで、環境応用化学科では、化学、化学工学および生物工学を基礎として、地球環境や生態系を保全する物質・資源・エネルギーの生産及び循環プロセスに関する技術の創造と発展に貢献できる人材の育成を目的とした教育研究を行います。

したがって、本学科では次のような人材を求めています。

- 1) 化学の知識・技術・考え方を真剣に学び、それを将来、応用化学あるいは環境・生物工学などの分野で活かしたいという情熱を持っている人（主体性）
- 2) 化学及び環境に関連する自然科学に対して幅広い興味や好奇心を持っている人（学問への関心）
- 3) 実験や観察が好きで科学現象について考え、それを表現できる人（思考力、表現力）
- 4) 数学、化学を含む理科及び語学の基礎学力を有し、それを身近な問題に応用できる人（知識・理解）
- 5) チームの一員として自分に与えられた役割を理解し、チームワークのもとで様々な問題を解決し、目的を達成することに貢献できる人（協働性）

（2）入学者選抜の基本方針

1) 一般入試（前期日程・後期日程）

高等学校で修得した基礎的な学力と環境応用化学を学習する上で重要な理数系科目、および英語の学力について、大学入試センター試験と個別学力試験によって、知識・理解および思考力を総合的に評価します。

2) AO入試

高等学校での学業成績が優秀なだけでなく様々な活動を積極的に行った者に対して、書類審査（調査書、自己推薦書、活動報告書）及び小論文、個人面接によって自然科学や語学の基礎学力ならびに環境応用化学への強い学修意欲および資質を総合的に判断します。

調査書では、知識・理解について評価します。

自己推薦書及び活動報告書では、表現力、主体性、協働性、学問への関心について評価します。

小論文では、限られた時間に与えられた課題に対する自分の考えをまとめ、それを論理的に表現できるかどうかを調査します。それによって、思考力と表現力を評価します。

個人面接では、知識・理解、思考力、表現力、主体性、協働性、学問への関心について評価します。

3) 私費外国人留学生入試

外国人留学生に対し、面接、小論文、および日本留学試験によって自然科学や語学の基

礎学力ならびに環境応用化学への強い学修意欲および日本語によるコミュニケーション能力を総合的に判断します。

面接では、知識・理解、主体性、および学問への関心について評価します。

小論文では、限られた時間に与えられた課題に対する自分の考えをまとめ、それを論理的に表現できるかどうかを調査します。それによって、思考力と表現力を評価します。

日本留学生試験では、知識・理解および思考力について評価します。

(3) 入学までに身に付けて欲しいこと

高等学校または高等専門学校等で履修すべき教科・科目について偏りなく履修しておくことが必要です。特に、化学、数学および物理については、それらの基本的な知識と理解を有し、さらに教科書レベルの標準的な内容を修得しておくことを求めます。さらに、協調性およびコミュニケーション能力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。

学部等名 工学部社会環境システム工学科

教育研究上の目的（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/>)

(概要)

社会環境システム工学科では、自然との共生を図りつつ生活・経済・文化・安全を支える社会基盤の充実に貢献できる高度技術者の育成を目指しています。

卒業の認定に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

(概要)

工学部では、以下のような能力を卒業要件としている。

1. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。
2. 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
3. 相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
4. 課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。
5. 学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

(概要)

社会環境システム工学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成します。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置します。
3. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために、学科・課程専門科目を設置します。
4. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題

解決に取り組む科目を設置します。

5. 社会の要請を察知し、また地球的視点から多面的に物事を考える能力を養うために、幅広い視点から物事を考えることのできる科目を設置します。
6. 獲得した知識や技能を統合し、課題の解決と新たな価値の創造につなげていく能力や態度を育成するために、卒業研究等の科目を設置します。
7. 土木環境のどの分野でも活躍できる基礎能力を身に付けるために、幅広い範囲の科目を設置します。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知します。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにします。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行います。
4. 学士課程教育において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにします。

【点検・評価】

1. GPA 制度を導入し、教育の質保証に向けて点検・評価・改善を行います。
2. 成績評価基準・方法に基づき、多様な評価方法を用いて厳格な評価を行います。
3. 学生は自己の学修の振り返りを行い、教員は学生の自己評価に基づいて指導を行います。
4. ディプロマ・ポリシーの方針に基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

（1）求める学生像

社会環境システム工学科では、技術者の基礎となる能力、土木環境工学のどの分野でも活躍できるための基礎能力、社会の要請を察知・理解して適切な行動ができる、また地球的視点から多面的に物事を考える能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

そこで、社会環境システム工学科では、自然との共生が可能な社会基盤（水道、下水道、公園、橋、トンネルなど）の構築や維持補修、交通計画や都市計画、環境保全や廃棄物処理・資源化などの技術や計画に対して熱意を持って取り組み、土木・環境分野および社会的課題に関する興味学問への関心を有し、自然科学の基礎学力に関する知識・理解と日本語と英語を基礎とした表現力を持つ人、また、学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる積極的に自己学習できる主体性をもった人材を求めています。

（2）入学者選抜の基本方針

1) 一般入試（前期日程・後期日程）

高等学校までに修得した基礎的学力と理数系科目など大学の学習で必要となる発展的学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力を総合的に評価します。

2) AO入試

高等学校での学業成績が優秀なだけでなく様々な活動を積極的に行った者に対して、書類審査（調査書、自己推薦書、活動報告書）及び筆記試験、集団討論、個人面接によって多様な能力を総合的に判断します。

調査書では、知識・理解について評価します。
 自己推薦書では、表現力、学問への関心について評価します。
 活動報告書では、表現力、主体性について評価します。
 筆記試験では、知識・理解、思考力について評価します。
 集団討論では、主体性、協働性について評価します。
 個人面接では、表現力、学問への関心について評価します。

3) 私費外国人留学生入試

外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心の評価します。

(3) 入学までに身に付けて欲しいこと

センター試験で課す数学、物理、化学など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、協調性、コミュニケーション能力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望まれます。

学部等名 工学部環境ロボティクス学科

教育研究上の目的（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/>)

(概要)

環境ロボティクス学科のコンセプトは、人々の生活や労働環境をより良いものにするロボット機器などを開発する知識を教育し、近未来の生活環境を創生することにあります。ハイブリッドカーなど、最近の工業製品の開発には機械、電気・情報、化学工学など融合的な知識が必要になっています。そこで、環境ロボティクス学科は、融合分野に強い人材、具体的には、「機械を設計し、これに電子回路およびコンピュータを組み込み、さらに環境を考慮したシステムを開発する知識をもつことで、近未来の生活環境を創生する人材」を育成することを目的としています。また、本学科で学ぶことで、ロボットや福祉機器など人々の生活や労働を支える自動化機器を開発する知識が身につきます。

卒業の認定に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

(概要)

工学部では、以下のような能力を卒業要件としている。

1. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。
2. 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
3. 相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
4. 課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。
5. 学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

(概要)

環境ロボティクス学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養うため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成の方針】

1. 学生の修得すべき学習成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成します。
2. 基本的な学習能力の獲得のために、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション）

ン、専門基礎)、課題発見科目(専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題)と学士力発展科目を設置します。

3. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置します。
4. 専門的な知識と方法論を体系的に学ぶために、学科専門カリキュラムを基礎分野、専門分野、融合・応用分野から構成し、専門科目を段階的に設置します。
5. 基礎分野および応用分野においては、多面的にものごとを考える力と、数学・機械・電気電子・情報・化学の各専門領域の基礎知識を身につけるための科目を設置します。
6. 融合・応用分野においては、工学デザイン能力、チームワーク力、プレゼンテーション技術を習得し、また、自律・継続的に問題に取り組むことのできる力を養うために演習、実験・実習科目を設置します。
7. 関連分野を有機的に結び付けて問題解決を行う能力を養うために、座学に加えて実験・実習を多く取り入れたカリキュラム構成とします。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、シラバスで到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前/事後の学習の指示、ディプロマポリシーとの関連を明確にし、周知します。
2. 基礎教育、専門教育の複数の科目において、アクティブラーニング(双方向型授業、グループワーク、発表など)を積極的に取り入れた授業形態、指導方法をとります。
3. 専門教育において、協調性、自己表現能力を養うとともに、学んだ知識を問題解決に応用する力を身につけるために、演習やセミナーなどで多様な教育方法を取り入れて指導を行います。
4. 学士課程教育において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにします。

【点検・評価】

1. GPAを用いて教育の点検・評価・改善を行います。
2. 成績評価基準・方法に基づき、多面的な評価を行います。
3. ポートフォリオを用いて、学習成果に基づいた指導を行います。
4. 学科科目の自己評価および各学期の自己点検を学生自ら行い、在学中の学修成果を評価します。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

(概要)

(1) 求める学生像

環境ロボティクス学科では、技術者としての倫理観、問題解決能力、専門分野で通用するコミュニケーション能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

そこで、環境ロボティクス学科では、機械・電気電子・化学およびコンピュータ等の先端技術に関連する分野、ならびにロボット、介護・福祉機器、環境制御などの設計開発と生活環境や自然環境の改善に関連する学問への関心がある人材を求めています。

また、実験や観察において深く考察する思考力と、その結果の表現力、数学、理科、英語に関する知識・理解、学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元できる主体性がある人材を求めています。

(2) 入学者選抜の基本方針

1) 一般入試(前期日程・後期日程)

高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目など大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力、を総合的に評価します。

2) AO入試

高等学校での学業成績が優秀なだけでなく様々な活動を積極的に行った者に対して、書

類審査（調査書、自己推薦書、活動報告書）及び筆記試験、集団討論、個人面接によって多様な能力を総合的に判断します。

調査書では、知識・理解について評価します。

自己推薦書及び活動報告書では、表現力、主体性、学問への関心について評価します。

筆記試験では、知識・理解と思考力を評価します。

集団討論では、限られた時間に自分の主張をまとめ、それを論理的に表現できるかどうか、グループ内で意見集約できるかどうかを調査します。それによって、協働性を評価します。

個人面接では、表現力、主体性、学問への関心について評価します。

3) 私費外国人留学生入試

外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心进行评估します。

(3) 入学までに身に付けてほしいこと

センター試験で課す数学、物理、英語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に着けると同時に、協調性、コミュニケーション能力など、大学での学習効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望まれます。

学部等名 工学部機械設計システム工学科

教育研究上の目的（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/>)

(概要)

現在までの日本の「ものづくり」の技術は、日本の産業を支えてきましたし、21世紀のこれからの産業界においても中心的な役割を担っていきます。その「ものづくり」の基幹となる学問の一つが機械工学です。機械工学は、私達の頭の中にあるアイデアを、具体的に形ある機械へと作り上げていく学問分野と言えます。機械設計システム工学科では、「人と自然にやさしいものづくり」を基本理念に掲げ、機械と自然との調和を考え、人間の生活をより豊かにする機械を創造できる高い倫理観を備えた機械技術者の育成を目指しています。

卒業の認定に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

(概要)

工学部では、以下のような能力を卒業要件としている。

1. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。
2. 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
3. 相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
4. 課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。
5. 学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

(概要)

機械設計システム工学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学習成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な教育課程を編成します。
2. 基本的な学習能力の獲得のために、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムと

して、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション、専門基礎）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置します。

3. 機械技術者として必要となる工学の基礎および機械工学の専門知識を体系的に学ぶために、工学基礎科目・専門科目を教育目標に即し段階的に設置します。
4. 論理的な記述力、口頭発表力などコミュニケーション能力を育成する科目を設置します。
5. 身に付けた知識や技能を統合し、自分のアイデアを実現するデザイン能力や問題解決能力を育成するために、実験・実習・卒業研究等の科目を設置します。
6. 人と機械の共存、機械と自然との調和、資源とエネルギーの有効利用などを考える能力を育成するための科目を設置します。
7. 社会秩序や自然環境保護に対する技術者の責務を考える能力を育成する科目を設置します。
8. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置します。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、シラバスで到達目標、授業計画、成績評価基準、成績評価方法を明確にし、周知します。
2. 主体的に考える力を育成するために、基礎教育、専門教育の複数の科目において、アクティブラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を積極的に取り入れた授業形態、指導方法をとります。
3. 実験、実習、設計などの実践的な教育方法を積極的に取り入れ、身に付けた専門的知識を活用・応用できるように指導します。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにします。

【点検・評価】

1. 成績評価基準、成績評価方法に基づき、多様な評価方法を用いて厳格な評価を行います。
2. 履修カルテやGPAにより、学習成果に基づいた指導を行います。
3. ディプロマ・ポリシーの方針に基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学習成果の全体を評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html>)

（概要）

（1）求める学生像

機械設計システム工学科では、機械と自然との調和を考える能力、社会秩序や環境保護に対する技術者の責務を考える能力、資源とエネルギーの有効利用を考える能力、機械工学に関連する問題解決能力と創造力、アイデアを実現できるデザイン能力およびそれを説明するコミュニケーション能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

そこで、機械設計システム工学科では「人と自然に優しいものづくり」に関連する技術の開発や研究に対して熱意を持って取り組み、数学及び理科の基礎的な知識・理解を有し、コミュニケーション能力を身に付ける上で必要となる語学能力と学問への関心を持つ人、また、学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる意欲溢れる人材を求めています。

（2）入学者選抜の基本方針

1) 一般入試（前期日程・後期日程）

高等学校までに修得した基礎科目と理数系科目など大学の学習で必要となる学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力を総合的に評価

<p>します。</p> <p>2) AO入試</p> <p>高等学校での学業成績が優秀なだけでなく様々な活動を積極的に行った者に対して、書類審査（調査書、自己推薦書、活動報告書）及び集団討論、個人面接によって多様な能力を総合的に判断します。</p> <p>調査書では、数学及び理科の基礎的な知識・理解について評価します。</p> <p>自己推薦書及び活動報告書では、表現力、主体性、学問への関心について評価します。</p> <p>集団討論では、協働性を評価します。</p> <p>個人面接では、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心について評価します。</p> <p>3) 私費外国人留学生入試</p> <p>外国人留学生に対し、小論文、面接、日本留学試験及び書類審査によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心进行评估します。</p> <p>(3) 入学までに身に付けて欲しいこと</p> <p>数学、物理・化学、英語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、協調性、自主的・継続的に学習する能力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。</p>
--

<p>学部等名 工学部電子物理工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ）</p>
<p>（概要）</p> <p>現在、産業の発展を支える新しい電子材料開発技術およびエネルギー関連技術などの広い科学技術に寄与 できる有能な人材が求められています。特に太陽電池関連産業および電子産業分野などの高度技術社会に対応できる人材を育成します。電子物理工学科では、科学技術者として高い倫理性を兼ね備えた人材育成を行い、専門職業人としての課題解決能力の習得が出来るような教育体制を作っています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）</p>
<p>（概要）</p> <p>工学部では、以下のような能力を卒業要件としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。 2. 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。 3. 相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 4. 課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。 5. 学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）</p>
<p>（概要）</p> <p>電子物理工学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。</p> <p>【教育課程の編成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学科の教育は、教養教育、専門教育科目で構成され、体系的な教育課程を編成します。 2. 基本的な学習能力の獲得のため、基礎教育カリキュラムとして、導入科目、課題発見科目と学士力発展科目を設置します。

3. 専門教育科目は、工学基礎科目と学科専門科目をくさび形に設置し体系的に科目を配置します。
4. 地域を思考した教育、研究および地域貢献を推進するため、学士課程に地域の課題を理解する科目を設定します。
5. 科学技術者として、社会に対する役割を理解し倫理観を身につける科目を設置します。
6. 自分の考えを正確に伝えられるプレゼンテーション能力を養う科目を設置します。
7. グローバルな世界に対応できるような英語及びコミュニケーション能力を養う科目を設置します。
8. 文献検索や調査を通して問題点を見出し、与えられた条件で実践的に解決にむけた取り組み方をまとめられる能力を育成します。

【実施の方針】

1. 各科目について、ディプロマ・ポリシーとの関係、到達目標、授業計画、成績評価基準、成績評価方法などをシラバスに明示し、周知します。
2. 初年時教育においてアクティブラーニングを取り入れた少人数教育を行い、個人の到達度に応じた指導を行い、学生が主体的な学びを行えるようにします。
3. シラバスで公表された成績評価基準、成績評価方法に基づき厳格な評価を行います。
4. キャリア支援システムにより学生の成績を一元的に管理し、学生自身による自己点検を年に1度促します。
5. 学士課程教育において地域の理解を深める題材を取り入れ、将来地域の課題解決を実践できるようにします。

【点検・評価】

1. GPA 制度を利用し、学生の修学状況を点検し改善を行います。
2. 成績評価基準に基づき、多様な評価方法を用いて厳格な評価を行います。
3. 学生の自己点検に基づいて、教員は指導を行います。
4. 学科の FD 活動に基づいて、授業の改善を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

（1）求める学生像

電子物理工学科では、現代産業の発展に寄与できる科学技術者の育成を目的とした教育を行います。特に、太陽光発電やエネルギー計測といった最先端の産業分野に象徴される高度技術社会に対応できる人材の育成を目標としています。

そこで電子物理工学科では、自然科学や科学技術に対する強い関心とそれらを生かして将来社会の役に立つ意欲がある人、数学や物理などの基礎的学力を有し持続して勉学に取り組むことができるとともに課題の解決へ向けて積極的に行動できる人、基礎的な英語力を持ち日本語での講義を理解できる人を求めています。

（2）入学選抜の基本方針

1) 一般入試（前期日程・後期日程）

高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目など大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力を総合的に評価します。

2) A O入試

高等学校での学業成績が優秀だけでなく様々な活動を積極的に行った者に対して、書類審査（調査書、自己推薦書、活動報告書）及び筆記試験、集団討論、個人面接によって総合的に判断します。

調査書では、知識・理解を評価します。

自己推薦書及び活動報告書では、自然科学や科学技術への関心度や学校内外の様々な学習成果や活動実績・資格等を審査します。それによって、表現力、主体性、学問への関心

<p>について評価します。</p> <p>筆記試験では、高等学校等で学習する内容に対する知識・理解、思考力を評価します。</p> <p>集団討論では、協働性について評価します。</p> <p>個人面接では、表現力、主体性、学問への関心について評価します。</p> <p>3) 私費外国人留学生入試</p> <p>外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心を評価します。</p> <p>(3) 入学までに身に付けて欲しいこと</p> <p>センター試験で課す物理、数学、化学など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、表現力、コミュニケーション能力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。</p>
--

<p>学部等名 工学部電気システム工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/）</p>
<p>(概要)</p> <p>現在、安全で安心な低炭素・高度情報化社会を実現する基幹技術として電気エネルギー工学と通信システム工学が融合した新しい産業技術の創出と人材育成が期待されています。電気システム工学科では、電気エネルギー技術や情報通信技術を中心に現代社会を支える基盤技術の基本原則と基礎知識を習得させ、社会の変化や要請に対応できる電気システム工学分野の専門技術者の育成を行います。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>工学部では、以下のような能力を卒業要件としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。 2. 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。 3. 相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 4. 課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。 5. 学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>電気システム工学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。</p> <p>【教育課程の編成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の修得すべき学習成果を重視し、教養科目と専門科目の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成します。 2. 基本的な学習能力の獲得のため、全ての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置します。 3. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために、工学全般に関わる基礎科目及び電気エネルギー、通信、電子回路、制御、計算機プログラムに関する講義、実験及び演習についての専門科目を設置します。

4. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置します。
5. 科学と技術の進歩とともに変動する多様な社会の要請に、高い技術者倫理観を持って応え得る能力を身につけるための学際的な視点を養う科目を設置します。
6. 獲得した知識や技能を統合し、課題の解決と新たな価値の創造につなげていく能力や態度を育成するために、卒業研究等の科目を設置します。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知します。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学習計画を立て主体的な学びを実践できるようにします。
3. 専門教育において、協調性、自己表現能力、問題解決に応用する力を養うために、講義、演習、実験などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行います。
4. 学士課程教育において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにします。

【点検・評価】

1. GPA 制度を導入し、教育の質保証に向けて点検・評価・改善を行います。
2. 成績評価基準・方法に基づき、多様な評価方法を用いて厳格な評価を行います。
3. 学生は自己の学修の振り返りを行い、教員は学生の自己評価に基づいて指導を行います。
4. ディプロマ・ポリシーの方針に基づく学生の学習過程を重視し、在学中の学習成果の全体を評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

（1）求める学生像

電気システム工学科では、技術者にとって必要となる数学を含めた自然科学の知識、電気エネルギーおよび情報通信分野に関する専門技術と実践能力、課題探求能力、課題解決能力およびデザイン能力を有し、多様なグローバル社会の要請に応え得る能力、技術者に求められるコミュニケーション能力、技術者に求められる倫理観、課題や問題に対して、自律的、継続的に取り組むことができる能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

そこで、電気システム工学科では、電気電子工学分野に対して熱意を持って取り組み、国際的な視野を有し、常に自分が何をもって社会に貢献できるかを問い続ける柔軟な考え方と数学、理科、英語などの基礎的学力、基礎的な表現力を持つ人、また、問題解決へ向けて、自分から積極的に目標と計画を立て、強い意志をもって持続的に取り組むことができる人を求めています。

（2）入学選抜の基本方針

1) 一般入試（前期日程・後期日程）

高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目を中心に大学の学習で必要となる専門科目を理解出来る基礎学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力を総合的に評価します。

2) AO入試

高等学校での学業成績が優秀だけでなく様々な活動を積極的に行った者に対して、一般入試では評価・確認が困難と思われる特徴的な資質・能力や学習意欲が備わっている人を受け入れます。

AO入試では、科学技術に対する強い興味と学習意欲を持っていることに加えて、書類審査（調査書、自己推薦書、活動報告書）及び小論文、集団討論、個人面接によって多様

<p>な能力を総合的に判断します。</p> <p>調査書では、知識・理解について評価します。</p> <p>自己推薦書では、表現力、主体性、学問への関心について評価します。</p> <p>活動報告書では、知識・理解、表現力、主体性、学問への関心について評価します。</p> <p>小論文では、思考力、表現力、主体性、学問への関心について評価します。</p> <p>集団討論では、協働性について評価します。</p> <p>個人面接では、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心について評価します。</p> <p>3) 私費外国人留学生入試</p> <p>外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験によって、技術者に必要な能力に加えて国際性や語学力、日本で研鑽する熱意、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心の評価します。</p> <p>(3) 入学までに身に付けて欲しいこと</p> <p>センター試験で課す数学、物理など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、履修すべき教科・科目について偏りなく履修しておくこと、電気システム工学分野の中核的科目である数学と物理については、それらの基本的な知識と理解を有し、さらに教科書レベルの標準的な問題を解くことができることなど、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。</p>
--

<p>学部等名 工学部情報システム工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ）</p>
<p>（概要）</p> <p>情報システム工学科では、社会からの人材育成並びに 21 世紀の情報通信社会を支える人材育成の需要を考え、情報科学の理論、計算機の構成や基本ソフト、情報解析技術などの基礎情報科学分野と、情報ネットワーク、生産情報システムなどの産業情報システム分野の双方で幅広く活躍できる人材の育成を目指しています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）</p>
<p>（概要）</p> <p>工学部では、以下のような能力を卒業要件としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。 2. 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。 3. 相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 4. 課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。 5. 学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）</p>
<p>（概要）</p> <p>情報システム工学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。</p> <p>【教育課程の編成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の修得すべき学習成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系

的な学士課程教育を編成します。

2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション、専門基礎）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置します。
3. 情報工学の基礎として、コンピュータ科学全般にわたる基礎知識及び数学的基礎を体系的に学ぶための科目を設置します。
4. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置します。
5. 情報システムやアプリケーションプログラムの設計、実装、評価ができる能力を養成するために、実践的なテーマの演習科目等を4年間通して設置します。
6. 獲得した知識や技能を統合し、課題の解決と新たな価値の創造につなげていく能力や態度を育成するために、卒業研究等の科目を設置します。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、シラバスで到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明確にし、周知します。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目では、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実践し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにします。
3. 専門教育の授業科目では協調性、自己表現力を養うとともに、学んだ知識を問題解決に応用する力を身につけるために、講義、演習、セミナーなどの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行います。
4. 学士課程教育において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにします。

【点検・評価】

1. GPA制度を導入し、教育の質保証に向けて点検・評価・改善を行います。
2. 成績評価基準・方法に基づき、多様な評価方法を用いて厳格な評価を行います。
3. 学生は自己の学修の振り返りを行い、教員は学生の自己評価に基づいて指導を行います。
4. ディプロマ・ポリシーの方針に基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価します。
5. 授業の実施方法について、組織的に点検・改善を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法）：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departament-exam/educational-policy.html>)

（概要）

（1）求める学生像

情報システム工学科では、社会に対する責任感、問題解決能力、専門分野で通用する高度なコミュニケーション能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

そこで、情報システム工学科では、情報科学技術を通じ、人類の幸福と社会の発展に貢献しようと熱意を持って取り組み、公式を覚えるのではなく公式そのものを導出できる知識・技能を有し、情報工学の学習に必要な数学、理科、英語についての基礎学力を持ち、明確な目標を持って継続的に自己学習を続けられる主体性を持つ人、また、学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる情熱に溢れる人材を求めています。

（2）入学者選抜の基本方針

1) 一般入試（前期日程・後期日程）

高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目など大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力を

<p>総合的に評価します。</p> <p>2)AO入試 高等学校での学業成績が優秀なだけでなく様々な活動を積極的に行った者に対して、書類審査（調査書、自己推薦書、活動報告書）及び個人面接によって多様な能力を総合的に判断します。 調査書では、知識・理解について評価します。 自己推薦書及び活動報告書では、表現力、主体性、協働性、学問への関心について評価します。 個人面接では、知識・理解、思考力、表現力、主体性、協働性、学問への関心について評価します。</p> <p>3)私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心を評価します。</p> <p>(3)入学までに身に付けて欲しいこと センター試験で課す数学、物理、英語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、主体性など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。</p>
--

<p>学部等名 工学部工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ）</p>
<p>（概要） 工学部は、宮崎県唯一の工学系学部として、「宮崎に根ざし世界に目を向けた工学部」を目標に、今後ますます進展する高度な科学技術に挑戦し、創造することができる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）</p>
<p>（概要） 工学部工学科では、以下の素養を身に付けるとともに、所定の期間在籍し、基準となる単位を修得した学生に、卒業を認定し、学位（学士号）を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 工学技術者としての高い意識を持ち、人類の文化、社会、自然、及び専攻する学問分野における知識を理解し、社会の発展のために積極的に関与できる。 2. 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。 3. 相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 4. 課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。 5. 人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能(実践力)を活用できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）</p>
<p>【教育課程の編成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成します。 2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目(大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション)、課題発見科目(専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題)と学士力発展科目を設置します。 3. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために、プログラム・課程専門科目を設置します。 4. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置します。

5. 工学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、工学技術者として必要な倫理・規範や責任を判断できる能力を養成する科目を設置します。
6. 専門分野に深い興味を持ち、自学自習による自発的な学習能力を養成する科目を設置します。
7. 日本語による論理的な記述、口頭発表及び討論ができ、かつ基礎的な工学英語を使ったコミュニケーション能力を養成する科目を設置します。
8. 身につけた専門知識を課題の発見や探求に利用し、更に課題解決へ応用できるデザイン能力を養成する科目を設置します。
9. 自然科学やデータサイエンス、並びに専門領域に対する基礎知識を身につけた人材を育成し、グローバルな視点から多面的に物事を考える能力を養成する科目を設置します。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知します。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにします。
3. 専門教育において、協調性、自己表現能力、主体的に考える力、知識・理論と実践を融合し問題解決に応用する力を養うために、講義、演習、実験、実習などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行います。
4. 学士課程教育において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにします。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表します。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行います。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析します。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価します。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行います。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

1. 求める学生像

工学部では、宮崎県唯一の工学系学部として、「宮崎に根ざし世界に目を向けた工学部」を目標に、人間性が豊かで、コミュニケーション能力が高く、確実な基礎学力と幅広い応用能力を身に付け、21世紀の高度な科学技術分野や最先端技術分野で活躍できるような、問題発見・解決能力を備えた創造性豊かな技術者の育成を目指しています。そこで、以下に示す「入学後の学修に必要な能力・適性」を多面的かつ総合的な評価手法によって選考し、受け入れます。

- 1) 工学技術者を目指し、地域社会や国際社会の発展に貢献する意欲がある人（主体性）
- 2) 自ら考え、主体的に学修する目的意識を有する人（主体性）
- 3) 大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な協調性及びコミュニケーションの基本的なスキルを身に付けた人（協働性、表現力）
- 4) 工学における多様な分野にも興味を持ち、創造性豊かな技術力と問題発見・解決能力を身に付けて社会に貢献する意欲のある人（学問への関心、思考力）
- 5) 工学専門分野を修得できる基礎学力を有する人（知識・理解、思考力）

2. 入学者選抜の基本方針

1) 一般選抜（前期日程・後期日程）高等学校までに修得した基礎的学力と理数系科目など大学の学習で必要となる発展的学力について、大学入学共通テストと個別学力検査によって、知識・理解、思考力を総合的に評価します。また、調査書を用いて主体性について評価します。

2) 総合型選抜 一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、意欲的かつ本学部への志望動機が明確な入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

高等学校での学業成績が優秀なだけでなく様々な活動を積極的に行った者に対して、第1次選考（調査書、自己推薦書、活動報告書）及び第2次選考（筆記試験・個人面接・集団討論・小論文）によって多様な能力を総合的に判断します。

第1次選考において、調査書では、知識・理解について評価します。自己推薦書では、表現力、学問への関心について評価します。活動報告書では、表現力、主体性について評価します。

第2次選考では、知識・理解、思考力、主体性、協働性、表現力、学問への関心について評価します。

3) 私費外国人留学生入試

外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心を評価します。

3. 入学までに身に付けてほしいこと

高等学校または高等専門学校等で履修すべき教科・科目について偏りなく履修しておくことが必要です。特に、化学、数学および物理については、それらの基本的な知識と理解を有し、さらに教科書レベルの標準的な内容を修得しておくことを求めます。さらに、協調性およびコミュニケーション能力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。

<p>学部等名 農学部植物生産環境科学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ）</p>
<p>（概要） 植物生産環境科学科では、安全・安心な農産物の安定的・持続的供給を行うための農学全般について学びます。また、自然循環機能や天敵を利用した環境保全型農業、環境調和型雑草防除、植物工場、農業の機械化や労働環境の改善、農地整備や灌漑利水、農業経営・経済などに関する専門科目についても実験・実習を交えながら学びます。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）</p>
<p>（概要） 農学部では、宮崎大学学務規則に規定する修業年限以上在学し、各学科所定の単位数を修得し、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（農学）の学位を与える。</p> <p>学 部（全学科に共通する部分）</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間性・社会性・国際性：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。 <ol style="list-style-type: none"> 倫理観：自己の良心と社会の規範やルール、モラルに従って行動できる。 チームワーク：他者と協調・協働して行動できる。 多文化・異文化理解：多文化・異文化に関する知識を理解できる。 主体的に学ぶ力：自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。 コミュニケーション能力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 <ol style="list-style-type: none"> 言語リテラシー：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。 他者理解・自己表現力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 課題発見・解決力：課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。 <ol style="list-style-type: none"> 情報リテラシー：情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、効果的に活用することができる。 問題解決力：問題を発見し、その問題を論理的に分析し、解決のための方策を考察できる。 <p>植物生産環境科学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。 <ol style="list-style-type: none"> 文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。 農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。 植物生産に関する基礎的・応用的知識：植物生産に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。 生産環境に関する基礎的・応用的知識：生産環境に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。 環境調和型農業に関する基礎的・応用的知識：環境調和型農業に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。 植物生産と生産環境に関する国際的視点，社会貢献力および指導力：植物生産と生産環境に関する国際的視点、社会貢献力および指導力を有し、社会で活用できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

植物生産環境科学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
10. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。
 - （1）安全・安心な農産物の安定的・持続的供給を行うための農学全般に関する科目
 - （2）自然循環機能を活かした環境保全型・調和型農業に関する科目
 - （3）農作物の栽培環境の改善、品種改良、成分分析、病害虫の診断・防除など、植物生産に関する科目
 - （4）農業の施設化・機械化や労働環境の改善、農地整備、農業経営・経済など、生産環境に関する科目

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。

4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

植物生産環境科学科では、農学に関する基礎知識、植物生産、生産環境、並びに環境調和型農業に関する基礎的・応用的知識、専門分野に関する国際的視点、社会貢献力および指導力を身に付けた人材の育成を目標としています。

（1）求める学生像

植物生産環境科学科では、農学に関する基礎知識の修得や安全・高品質な農・園芸作物の安定供給、生産環境の改善、環境調和型農業の実現に対して熱意を持って取り組み、植物生産環境科学分野における課題解決能力をもち、学修を通して獲得した国際的視点、知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる人材の育成を目標としています。

そこで、植物生産環境科学科では次のような人材を求めています。

1. 自然環境に配慮した農業生産や自然科学に対する関心をもっている人（学問への関心）
2. 大学での学修の基盤となる幅広い知識や理科の基礎学力をもっている人（知識・理解）
3. 自然科学をはじめ、世の中の様々な事柄をよく観察して深く考察し、それを表現する力をもっている人（思考力、表現力）
4. 学業をはじめ、学校内外の活動に、積極的に取り組むことができ、国際的な視野と責任感をもっている人（主体性）
5. 学業や学校内外の活動をはじめ、様々な場面において、他者との協力を厭わない人間性をもっている人（協働性）

（2）入学者選抜の基本方針

1)一般選抜（前期日程・後期日程）

高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目など大学の学修で必要となる発展的な学力について、大学入学共通テストと個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力を総合的に評価します。

調査書によって、学問への関心、主体性、協働性について評価します。

2)学校推薦型選抜

高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入学共通テストを免除する代わりに、面接及び書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。

面接では学問への関心、知識・理解、思考力、主体性、協働性について評価します。

書類審査では調査書、推薦書、志望理由書を審査します。それによって、学問への関心、知識・理解、表現力、主体性、協働性について評価します。

3)帰国生徒選抜

帰国生徒に対し、小論文、面接、出願書類によって、学問への関心、知識・理解、思考力、表現力、主体性、協働性を評価します。

4)社会人選抜

社会人に対し、面接、出願書類によって、学問への関心、知識・理解、思考力、表現力、主体性、協働性を評価します。

5)私費外国人留学生入試

外国人留学生に対し、日本留学試験、小論文、面接、出願書類によって、学問への関心、知識・理解、思考力、表現力、主体性、協働性を評価します。

(3) 入学までに身に付けて欲しいこと

理科、数学、英語以外にも、国語や地理歴史・公民など、高校で履修する教科・科目について偏りなく勉強しておく必要があります。また、主体性、協調性など、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。

学部等名 農学部森林緑地環境科学科

教育研究上の目的（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/>）

（概要）

森林緑地環境科学科では、森林・農山村・都市域を、相互に作用し合う一つの連続した空間として捉えます。人間活動と自然をつなぐ複合的な新しい学際領域です。その連続した空間における自然環境の保全と安全で快適な生活環境の形成、および生物資源の高度な利活用を視野にいれ、森林緑地の恩恵（機能）の解明とそれに基づく技術の確立を目指して教育・研究を行います。

卒業の認定に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>）

（概要）

農学部では、宮崎大学学務規則に規定する修業年限以上在学し、各学科所定の単位数を修得し、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（農学）の学位を与える。

学 部（全学科に共通する部分）

1. 人間性・社会性・国際性：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。
 - (1) 倫理観：自己の良心と社会の規範やルール、モラルに従って行動できる。
 - (2) チームワーク：他者と協調・協働して行動できる。
 - (3) 多文化・異文化理解：多文化・異文化に関する知識を理解できる。
2. 主体的に学ぶ力：自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
3. コミュニケーション能力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
 - (1) 言語リテラシー：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
 - (2) 他者理解・自己表現力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
4. 課題発見・解決力：課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。
 - (1) 情報リテラシー：情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、効果的に活用することができる。
 - (2) 問題解決力：問題を発見し、その問題を論理的に分析し、解決のための方策を考察できる。

森林緑地環境科学科

5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身につけた技能（実践力）を活用できる。
 - (1) 文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
 - (2) 農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
 - (3) 森林・緑地の機能に関する基礎的・応用的知識と国際的視点や課題解決能力：森

- 林・緑地の機能に関する広い知識を修得し、国内外の諸課題に対応できる。
- (4) 自然環境や国土保全、水資源利用に関する基礎的・応用的知識：自然環境や国土の保全、水資源の安定的な利用など、安全で持続可能な国土づくりに寄与できる。
 - (5) 樹木・菌類、非生物材料の特性に関する基礎的・応用的知識：樹木・菌類、非生物材料等の特性を深く理解し、適切に活用することができる。
 - (6) 多機能型森林緑地管理に関する基礎的・応用的知識と計画・実行力：自然環境と生物資源利用の調和を目指した森林緑地管理を計画・実行できる。
 - (7) 環境と調和した材料の開発力と緑化の実践力：環境と調和した材料の開発や緑化を實踐できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

(概要)

森林緑地環境科学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
10. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。
 - (1) 森林・緑地の機能に関する基礎的・応用的知識と国際的視点や問題解決能力を修得するための科目
 - (2) 自然環境や国土保全、水資源利用に関する基礎的・応用的知識を修得するための科目
 - (3) 樹木・菌類、非生物材料等の特性に関する基礎的・応用的知識を修得するための科目
 - (4) 多機能型森林緑地管理に関する基礎的・応用的知識と計画・実行力を修得するための科目
 - (5) 環境と調和した材料の開発力と緑化の実践力を修得するための科目

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを實踐できるようにする。

3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

(概要)

森林緑地環境科学科では、森林・緑地の機能に関する基礎的・応用的知識と国際的視点や課題解決能力、自然環境や国土保全及び水資源利用に関する基礎的・応用的知識、樹木・菌類及び非生物材料の特性に関する基礎的・応用的知識、多機能型森林緑地管理に関する基礎的・応用的知識と計画・実行力、環境と調和した材料の開発力と緑化の実践力を身に付けた人材の育成を目標としています。

(1) 求める学生像

森林緑地環境科学科では、森林・緑地の機能に関する基礎的・応用的知識と国際的視点や課題解決能力、自然環境や国土保全及び水資源利用に関する基礎的・応用的知識、樹木・菌類及び非生物材料の特性に関する基礎的・応用的知識、多機能型森林緑地管理に関する基礎的・応用的知識と計画・実行力、環境と調和した材料の開発力と緑化の実践力を身に付けた人材の育成を目標としています。

そこで、森林緑地環境科学科では次のような人材を求めています。

1. 森林・緑地の諸問題の解決に向けて熱意を持って自ら取り組む人（主体性）
2. 森林・緑地に関連する自然科学と社会現象に幅広い興味と探究心を有する人（学問への関心）
3. 環境問題をはじめ、世の中の様々な事柄をよく観察して深く考察し、その結果を表現する力を有する人（思考力、表現力）
4. 大学での学修の基盤となる幅広い知識や言語力、森林・緑地に関する基礎学力を有する人（知識・理解）
5. 様々な活動において他者と協力しながら課題解決を図るとともに、自らの能力を社会の一員として地域・世界に還元する情熱と責任感を有する人（協働性）

(2) 入学者選抜の基本方針

1)一般選抜（前期日程・後期日程）

高等学校までに修得した基礎的な学力と大学の学修で必要となる発展的な学力について、大学入学共通テストと個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力を総合的に評価します。

調査書によって、主体性、協働性、学問への関心について評価します。

2)学校推薦型選抜

高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入学共通テストを免除する代わりに、

面接及び書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。

面接では主体性、知識・理解、思考力、学問への関心、協働性について評価します。

書類審査では調査書、推薦書、志望理由書を審査します。それによって、主体性、知識・理解、学問への関心、表現力、協働性について評価します。

3)総合型選抜

高等学校での学業成績が優秀だけでなく様々な活動を積極的に行った者に対して、大学入学共通テストを免除する代わりに、書類審査（調査書、自己推薦書、活動報告書）、模擬講義等の受講及びレポートの作成及び個人面接によって多様な能力を総合的に判断します。

調査書では、知識・理解、主体性、協働性について評価します。

自己推薦書及び活動報告書では、主体性、協働性、学問への関心について評価します。

模擬講義の受講及びレポート作成では、思考力、表現力、学問への関心について評価します。

個人面接では、主体性、協働性、思考力、表現力、学問への関心について評価します。

4)帰国生徒選抜

帰国生徒に対し、小論文、面接、出願書類によって、思考力、表現力、主体性、知識・理解、学問への関心の評価します。

5)社会人選抜

社会人に対し、面接と出願書類によって、知識・理解、主体性、協働性、思考力、表現力、学問への関心の評価します。

6)私費外国人留学生入試

外国人留学生に対し、日本留学試験、小論文、面接、出願書類によって、知識・理解、思考力、表現力、協働性、主体性、学問への関心の評価します。

(3)入学までに身に付けて欲しいこと

理科、数学、英語以外にも、国語や地理歴史・公民など、高校で履修する教科・科目について偏りなく勉強しておく必要があります。また、大学での学修効果を高め、充実した学生生活を送るために、自ら興味を深め課題を発見する姿勢や、多様な意見を聞きながら多くの人と協力して課題解決をはかる態度も、あわせて身に付けておくことを望みます。

学部等名 農学部応用生物科学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ）
（概要） 「生命・食料・環境問題を解決するために生物や食品に潜む機能をいかに活用するか」というテーマを中心に課題探求型の教育研究システムを用意しています。1、2年次では教養教育と並行して生物学や化学などの専門基礎科目を徹底して学習します。専門教育では生命・食料・環境を網羅する各分野の専門講義および実験を履修します。本学科は、生物工学や食品関連分野における幅広い知識と先端技術の習得を目標に教育を行います。
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）
（概要） 農学部では、宮崎大学学務規則に規定する修業年限以上在学し、各学科所定の単位数を修得し、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（農学）の学位を与える。
学 部（全学科に共通する部分）
1. 人間性・社会性・国際性：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。 （1）倫理観：自己の良心と社会の規範やルール、モラルに従って行動できる。 （2）チームワーク：他者と協調・協働して行動できる。

- (3) 多文化・異文化理解：多文化・異文化に関する知識を理解できる。
2. 主体的に学ぶ力：自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
3. コミュニケーション能力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
- (1) 言語リテラシー：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
- (2) 他者理解・自己表現力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
4. 課題発見・解決力：課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。
- (1) 情報リテラシー：情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、効果的に活用することができる。
- (2) 問題解決力：課題を発見し、その問題を論理的に分析し、解決のための方策を考察できる。

応用生物科学科

5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
- (1) 文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
- (2) 農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
- (3) 数学および自然科学に関する基礎知識：数学および化学、生物などの自然科学について理解し、応用できる。
- (4) 応用生物科学に関する知識：応用生物化学・微生物機能開発学・植物機能科学・食品科学・動物資源科学の5分野に関する基礎および専門知識を理解し、それを問題解決に応用できる。
- (5) 技術者の社会的責任に関する理解：応用生物科学の知識・技術が社会に及ぼす影響を認識し、技術者として必要な責任ある判断と行動について考えることができる。
- (6) 制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる力：応用生物科学に関する課題解決のための筋道をデザインし、自立して仕事を計画的に進め、期限内に終わることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

(概要)

応用生物科学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。

7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
10. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。
 - (1) 化学、生物、数学を主とする自然科学および情報技術に関する基礎的知識を修得するための科目
 - (2) 応用生物学に関する専門知識とそれらを問題解決に応用できる能力を修得するための科目
 - (3) 社会貢献を意識し、応用生物学に関連する知識・技術が社会と環境に及ぼす影響を理解すると共に、技術者の社会的責任を理解するための科目
 - (4) 課題解決のための筋道をデザインし、与えられた制約の下で自立的・計画的に仕事を進め、期限内にまとめる能力を修得するための科目
 - (5) 応用生物学分野における課題に関する情報収集力、記述力、プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力を修得するための科目
 - (6) 応用生物学分野に関連する社会の変化に柔軟に対応するために、継続的、自発的に学ぶ学習態度を修得するための科目
 - (7) チームで仕事をすることの重要性を理解し、適切に行動できる能力を修得するための科目

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

(概要)

応用生物科学科では、農学に関する基礎知識、数学および自然科学に関する基礎知識、応用生物科学に関する知識、技術者の社会的責任、制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる力を身に付けた人材の育成を目標としています。

(1) 求める学生像

応用生物科学科では動植物や微生物がもつ機能やその利用を化学的視点で思慮することができる、生物機能や食品機能に関する諸問題を論理的に考察できる、バイオサイエンス分野における課題解決能力と倫理観を有する、高いコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を有する、また、バイオサイエンス分野の先端的・独創的科学技術を応用して地域・国際社会に貢献できる人材の育成を目標としています。

そこで、応用生物科学科では次のような人材を求めています。

1. 化学をはじめとする自然科学に対して強い興味と探究心をもっている人（学問へ関心）
2. 化学や生物などの理科（自然科学）や数学、英語などの基礎学力を備えている人（知識・理解）
3. 自然科学をはじめ、世の中の様々な事柄をよく観察して深く考察し、それを表現する力をもっている人（思考力、表現力）
4. 学業をはじめ、学校内外の活動に、積極的に取り組もうとする人（主体性）
5. 学業や学校内外の活動をはじめ、様々な場面において、他者との協力を厭わない人間性をもつ人（協働性）

(2) 入学者選抜の基本方針

1)一般選抜（前期日程・後期日程）

高等学校までに修得した基礎的な学力と大学の学修で必要となる理数系科目についての発展的な学力について、大学入学共通テストと個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力を総合的に評価します。

調査書によって、主体性、協働性、学問への関心について評価します。

2)学校推薦型選抜

高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入学共通テストを免除する代わりに、面接及び書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。

面接では主体性、知識・理解、思考力、学問への関心、協働性について評価します。

書類審査では調査書、推薦書、志望理由書を審査します。それによって、主体性、知識・理解、学問への関心、表現力、協働性について評価します。

3)帰国生徒選抜

帰国生徒に対し、小論文、面接、出願書類によって、思考力、表現力、主体性、知識・理解、学問への関心、協働性を評価します。

4)社会人選抜

社会人に対し、面接、出願書類によって、知識・理解、主体性、協働性、思考力、表現力、学問への関心の評価します。

5)私費外国人留学生入試

外国人留学生に対し、日本留学試験、小論文、面接によって、知識・理解、思考力、表現力、協働性、主体性、学問への関心の評価します。

(3) 入学までに身に付けて欲しいこと

理科（特に化学・生物）、数学、英語以外にも、国語や地理歴史・公民など、高校で履修する教科・科目について偏りなく学習しておく必要があります。また、主体性、協働性など、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。

学部等名 農学部海洋生物環境学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ）
（概要） 海洋は地球の環境を和らげ、生物資源に満ちています。このような水圏環境について深く学び、生物の多様性と利活用を理解・修得することによって、広く人類の未来について思索し、地域ばかりなく、国際社会に通用する教育・研究を行うことを目的としています。
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）
（概要） 農学部では、宮崎大学学務規則に規定する修業年限以上在学し、各学科所定の単位数を修得し、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（農学）の学位を与える。
学 部（全学科に共通する部分）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間性・社会性・国際性：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。 <ol style="list-style-type: none"> （1）倫理観：自己の良心と社会の規範やルール、モラルに従って行動できる。 （2）チームワーク：他者と協調・協働して行動できる。 （3）多文化・異文化理解：多文化・異文化に関する知識を理解できる。 2. 主体的に学ぶ力：自ら学修計画を立て、主体的な学びを实践できる。 3. コミュニケーション能力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 <ol style="list-style-type: none"> （1）言語リテラシー：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。 （2）他者理解・自己表現力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 4. 課題発見・解決力：課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。 <ol style="list-style-type: none"> （1）情報リテラシー：情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、効果的に活用することができる。 （2）問題解決力：問題を発見し、その問題を論理的に分析し、解決のための方策を考察できる。
海洋生物環境学科
<ol style="list-style-type: none"> 5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。 <ol style="list-style-type: none"> （1）文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。 （2）農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。 （3）水圏（生物と環境）に関する専門的基礎知識と専門的知識の応用力：水圏（生物と環境）に関する専門的基礎知識を有し、その知識を社会で応用できる。 （4）環境と食糧生産の諸問題に関する分析力：環境と食糧生産の諸問題を、データを基に分析できる。 （5）環境と食糧生産の諸問題の解決に貢献する能力：分析した環境と食糧生産の諸問題を、解決に導くための貢献ができる。 （6）専門分野における地域社会や国際社会で活躍できる能力：専門分野における域社会や国際社会で、他と協力し活躍できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）

(概要)

海洋生物環境学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
10. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。
 - (1) 情報収集能力、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を修得するための科目
 - (2) 水域生物の生理、生態、遺伝、分類、資源利用、水族の疾病、水域環境の保全に関する科目
 - (3) フィールド体験や実験実習を通して、海洋をはじめとした生物の生息水域における生物資源の生産、利用、管理および環境の保全に関する科目

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。

5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

海洋生物環境学科では、農学に関する基礎知識、水圏に関する専門的基礎知識と専門的知識を応用できる能力、環境と食糧生産の諸問題に関する分析力、環境と食糧生産の諸問題の解決に貢献する力、地域社会や国際社会で活躍できる能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

（1）求める学生像

海洋生物環境学科では、農学に関する基礎知識、水圏に関する専門的基礎知識と専門的知識を応用できる能力、環境と食糧生産の諸問題に関する分析力・解決能力、特に海洋環境学分野における課題解決能力を重視し、学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を海洋環境学分野の技術者として社会に還元することのできる人材の育成を目標としています。更に地域社会や国際社会で活躍できる能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

そこで、海洋生物環境学科では次のような人材を求めています。

1. 海洋生物や水圏環境の保全、水域生物の生産・利活用、水族の生理機能に深い興味を有している人（学問への関心）
2. 海洋環境と生物生産の諸問題の解決に熱意をもって取り組むことができる人（主体性）
3. 実験や観察において深く考察し、その結果を表現する力がある人（思考力、表現力）
4. 大学での学修の基盤となる幅広い知識や自然科学に関する基礎学力を有する人（知識・理解）
5. 学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会の一員として地域・世界に還元することのできる人（協働性）

（2）入学者選抜の基本方針

1)一般選抜（前期日程・後期日程）

高等学校までに修得した基礎的な学力と大学の学修で必要となる発展的な学力について、大学入学共通テスト、個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力を総合的に評価します。

調査書によって、主体性、協働性、学問への関心について評価します。

2)学校推薦型選抜

高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入学共通テストを免除する代わりに、面接及び書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。

面接では、表現力、主体性、学問への関心及び思考力を評価します。

書類審査では推薦書、調査書、志望理由書を審査します。それによって、知識・理解、協働性を評価します。

3)帰国生徒選抜

帰国生徒に対し、面接と小論文、出願書類によって、表現力、主体性、学問への関心、思考力及び協働性、知識・理解を評価します。

4)社会人選抜

社会人に対し、面接と出願書類によって、表現力、主体性、学問への関心、思考力及び協働性、知識・理解を評価します。

5)私費外国人留学生入試

外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験、出願書類によって、表現力、主体性、知識・理解、学問への関心、思考力及び協働性を評価します。

<p>(3) 入学までに身に付けて欲しいこと</p> <p>高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、海洋環境、海洋生物生産・増殖などの自然科学については、本を読むなどして知識を深めてください。また、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために、主体性、協働性、表現力などもあわせて身に付けておくことを望みます。</p>
<p>学部等名 農学部畜産草地科学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ）</p>
<p>（概要）</p> <p>低コスト・低労力化のもとで、限られた自給飼料の リサイクルに基盤をおいた畜産に関する基礎的、応 用的な知識を身につけるばかりでなく、食料や飼料 自給率の向上、自然・社会環境の調和を目指しながら、 国内外の「食料・農業・農村」をめぐる諸課題 の解決にも貢献できる人材を育成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）</p>
<p>（概要）</p> <p>農学部では、宮崎大学学務規則に規定する修業年限以上在学し、各学科所定の単位数を修得し、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（農学）の学位を与える。</p> <p>学 部（全学科に共通する部分）</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間性・社会性・国際性：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使用し、社会の発展のために積極的に関与できる。 <ol style="list-style-type: none"> 倫理観：自己の良心と社会の規範やルール、モラルに従って行動できる。 チームワーク：他者と協調・協働して行動できる。 多文化・異文化理解：多文化・異文化に関する知識を理解できる。 主体的に学ぶ力：自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。 コミュニケーション能力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 <ol style="list-style-type: none"> 言語リテラシー：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。 他者理解・自己表現力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。 課題発見・解決力：課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。 <ol style="list-style-type: none"> 情報リテラシー：情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、効果的に活用することができる。 問題解決力：問題を発見し、その問題を論理的に分析し、解決のための方策を考察できる。 <p>畜産草地科学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。 <ol style="list-style-type: none"> 文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。 農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。 草地・飼料の基礎的・応用的知識・技能：草地・飼料に関する基礎的・応用的知識

識・技能を有し、社会で活用できる。

- (4) 家畜の基礎的・応用的知識・技能：家畜に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
- (5) 資源・環境の基礎的・応用的知識・技能：資源・環境に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
- (6) 食料・畜産業・農村の基礎的・応用的知識・技能：食料・畜産業・農村に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
- (7) 専門分野に関する国際性と課題解決能力：専門分野に関する国際性と課題解決能力を有し、社会で活用できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

(概要)

畜産草地科学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
10. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。
 - (1) 家畜の合理的な生産や福祉に関する知識を修得するための科目
 - (2) 飼料となりうる資源の開発やその活用に関する知識を修得するための科目
 - (3) 草地・放牧の適切な管理などに関する知識を修得するための科目
 - (4) 家畜の体の仕組み、病気の予防や公衆衛生、畜産食品製造などに関する知識を修得するための科目
 - (5) その他、畜産業に関する実践的知識・技能を修得するための科目

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。

4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

(概要)

畜産草地科学科では、農学に関する基礎知識、草地・飼料、家畜、資源・環境および食料・畜産業・農村に関する基礎的・応用的知識・技能、専門分野に関する国際性と課題解決能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

(1) 求める学生像

畜産草地科学科では、農学に関する基礎知識、草地・飼料、家畜、資源・環境及び食料・畜産業・農村に関する基礎的・応用的知識・技能、専門分野に関する国際性と課題解決能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

そこで、畜産草地科学科では次のような人材を求めています。

1. 動植物に対する幅広い興味や関心を有する人（学問への関心）
2. 大学での学修の基盤となる幅広い知識や生物、化学に関する基礎学力を有する人（知識・理解）
3. 実験や観察において深く考察する能力を有し、その結果を表現する力をもっている人（思考力、表現力）
4. 資源循環、環境の保全、家畜の福祉などに配慮した持続的な畜産業の構築に熱意をもって取り組むことのできる人（主体性）
5. 学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会の一員として地域・世界に還元できる資質を有する人（協働性）

(2) 入学者選抜の基本方針

1)一般選抜（前期日程・後期日程）

高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目など大学の学修で必要となる発展的な学力について、大学入学共通テストと個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力を総合的に評価します。

調査書によって、主体性、協働性、学問への関心について評価します。

2)学校推薦型選抜

高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入学共通テストを免除する代わりに、面接及び書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。

面接では主体性、協働性、学問への関心について評価します。

書類審査では推薦書、調査書、志望理由書を審査します。それによって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心を評価します。

3)帰国生徒選抜

帰国生徒に対し、面接、小論文、出願書類によって、表現力、主体性、協働性、学問へ

の関心、知識・理解、思考力を評価します。

4)社会人選抜

社会人に対し、面接と出願書類によって、主体性、協働性、学問への関心、知識・理解、思考力、表現力を評価します。

5)私費外国人留学生入試

外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験、出願書類によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、協働性、学問への関心を経験を評価します。

(3) 入学までに身に付けて欲しいこと

生物、化学、英語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、主体性、協調性など、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。

学部等名 農学部獣医学科

教育研究上の目的（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/>)

(概要)

獣医学は動物の疾病の予防・診断・治療のための学問として発達してきましたが、生活の多様化や高度化に伴い、研究分野は動物の保健の向上のみならず、公衆衛生、医薬品開発、動物愛護、環境保全など、広範囲にわたる生命科学の重要な一翼を担っています。獣医学科は広範な分野で高度な専門性を発揮できる獣医師、さらに動物医学を基本とした幅広い応用能力を身につけ、高い実践能力を備えた人材の育成を目指しています。

卒業の認定に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

(概要)

農学部では、宮崎大学学務規則に規定する修業年限以上在学し、各学科所定の単位数を修得し、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（獣医学）の学位を与える。

学 部（全学科に共通する部分）

1. 人間性・社会性・国際性：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使用し、社会の発展のために積極的に関与できる。
 - (1) 倫理観：自己の良心と社会の規範やルール、モラルに従って行動できる。
 - (2) チームワーク：他者と協調・協働して行動できる。
 - (3) 多文化・異文化理解：多文化・異文化に関する知識を理解できる。
2. 主体的に学ぶ力：自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
3. コミュニケーション能力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
 - (1) 言語リテラシー：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
 - (2) 他者理解・自己表現力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
4. 課題発見・解決力：課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。
 - (1) 情報リテラシー：情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、効果的に活用することができる。
 - (2) 問題解決力：課題を発見し、その問題を論理的に分析し、解決のための方策を考察できる。

獣医学科

5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学

問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。

- (1) 文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
- (2) 農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
- (3) 獣医専門知識：獣医師としての専門知識を有し、社会で活躍できる。
- (4) 獣医的倫理観：獣医師としての正しい倫理観を有し、社会で活躍できる。
- (5) 獣医的応用・実践・開拓力：獣医専門知識を生かして、応用・実践・開拓ができる。
- (6) 地域・国際社会への貢献能力：獣医専門知識を生かして、地域や国際社会へ貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

獣医学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 実践的な能力を深化させるために、共用試験に合格することをもって受講できる参加型臨床科目を設置する。
9. 進路を見据えて、より高度な専門的な知識を取得するために、アドバンス科目を設置する。
10. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
11. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
12. 獣医師国家試験の受験資格を修得できるように、6年間を通じ以下の内容を含む授業科目を体系的に配置する。
 - (1) 動物の体のしくみや機能に関する知識や技能を修得するための科目
 - (2) 動物の病気のなりたちや感染症に関する知識や技能を修得するための科目
 - (3) 公衆衛生ならびに動物の衛生管理や福祉に関する知識と技能を修得するための科目
 - (4) 動物の繁殖や栄養学に関する知識と技能を修得するための科目
 - (5) 病気の診断・治療・予防法に関する知識と技能を修得するための科目

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニング

を取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを
実践できるようにする。

3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html>)

（概要）

獣医学科では、農学に関する基礎知識、獣医専門知識、獣医的倫理観、獣医的応用・実践・開拓力、地域・国際社会への貢献能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

（1）求める学生像

獣医学科では、農学に関する基礎知識、獣医専門知識、獣医的倫理観、獣医的応用・実践・開拓力、地域・国際社会への貢献能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

そこで、獣医学科では、次のような人材を求めています。

1. 自然科学に対する幅広い興味や関心を有している人（学問への関心）
2. 学修の基盤となる幅広い知識や理科、数学、語学に関する基礎学力をもっている人（知識・理解）
3. 自然科学をはじめ、様々な事柄をよく観察して深く考察し、それを表現する力がある人（思考力、表現力）
4. ヒトの動物の健康ならびに福祉の向上に必要な高度な専門知識の修得に対して主体的に取り組むことができる人（主体性）
5. 学業や学校内外の活動をはじめ、様々な場面において、他者との協力を厭わない人間性をもつ人（協働性）

（2）入学者選抜の基本方針

1)一般選抜（前期日程・後期日程）

高等学校までに修得した基礎的な学力と大学の学修で必要となる理数系科目についての発展的な学力について、大学入学共通テストと個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力を総合的に評価します。

また、調査書によって、主体性、協働性、学問への関心について評価します。

2)私費外国人留学生入試

外国人留学生に対し、面接、小論文、出願書類によって、知識・理解、思考力、表現力、協働性、主体性、学問への関心进行评估します。

（3）入学までに身に付けて欲しいこと

高等学校で履修する教科・科目について偏りなく勉強しておく必要があります。また、

主体性、協働性など大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。

学部等名 地域資源創成学部

教育研究上の目的（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/>)

（概要）

地域資源創成学部では、マネジメントの専門知識と社会・人文科学、及び農学・工学分野の利活用技術の基礎知識を教授する異分野融合のカリキュラムを構築するとともに、研究者教員と実務家教員とが協働した実践的教育、宮崎県全域をフィールドとした実習や国内・海外インターンシップによる地域の方々と一体となった協働教育を導入します。このような教育により、地域の製造業、食品・醸造業、マスコミ、観光、サービス業、国・自治体、経済団体の幹部候補や、事業承継者、起業家などに必要な知識・技能を教授します。人材像としては、持続可能な地域づくりを包括的にマネジメントでき、地域資源を理解し利活用しつつ、ビジネス・地域産業、行政などの現場で、革新的な価値を創出できる人材の輩出を目指します。その上で、地域資源創成学部の OB・OG を核として地域の産学官の人的ネットワークを形成し、地域の持続的発展に末永く貢献していくことを究極の目標とします。

企業マネジメントコースでは、国内外の産業経済構造を俯瞰的に捉え、地域の社会経済状況を調査・分析し、その知見をもって、国内市場や海外市場の開拓やリンケージ構築、企業誘致、起業等、地域経済の発展に向け、既存の産業に新たな価値創造（イノベーション）を引き起こし、地域の産業振興に寄与する次世代のビジネスリーダーを養成します。

地域産業創出コースでは、地域資源（農業・自然・文化等）の価値を理解し、地域資源を活用した新商品の企画、ビジネスの新展開、様々な切り口からの地域資源の魅力発信等を通じて地域資源に新たな価値を見出し、6次産業化や観光等の地域の産業創出につなげることができる人材を養成します。

地域創造コースでは、中山間地域における過疎・高齢化、中心市街地衰退等の課題解決や、地域社会の維持発展に向けて、地域における住民の組織やネットワーク、行政制度等について理解するとともに、地方都市・農山村の経済機能、社会機能、環境機能を総合的に捉え、地域活動を有機的に連結し、活性化できる持続可能な地域づくりをトータルマネジメントできる人材を養成します。

卒業の認定に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

本学部は、宮崎大学学務規則に規定する修業年限以上在学し、所定の単位数を修得し、以下の素養を身につけ、かつ、卒業研究の審査に合格した学生に対して卒業を認定し、学士（地域資源創成学）の学位を与える。

1. 人間性・社会性・国際性：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。

(1) 倫理観：自己の良心と社会の規範やルール、モラルに従って行動できる。

(2) チームワーク：他者と協調・協働して行動できる。

(3) 多文化・異文化理解：多文化・異文化に関する知識を理解できる。

2. 主体的に学ぶ力：自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。

3. コミュニケーション能力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。

(1) 言語リテラシー：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。

(2) 他者理解・自己表現力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。

4. 課題発見・解決力：課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。

(1) 情報リテラシー：情報通信技術(ICT)を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、効果的に活用することができる。

(2) 問題解決力：人々と広く協働し、地域の資源や状況をよく理解・分析することで問題解決に導くことができる。

5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能(実践力)を活用できる。

(1) 地域資源創成のために必要なマネジメントの専門知識を有している。

(2) 地域資源創成のために必要な社会・人文科学、及び農学・工学の利活用技術の基礎知識を有し、複眼的な視野から地域資源の価値を捉えることができる。

(3) 以下のいずれかの人材養成像に対応した、地域資源を活用し、新たな価値を創成する企画力・実践力を有している。

【企業マネジメントコース】

国内外の産業経済構造を俯瞰的に捉え、地域の社会経済状況を調査・分析し、その知見をもって、国内市場や海外市場の開拓やリンク構築、企業誘致、起業等、地域経済の発展に向け、既存の産業に新たな価値創造(イノベーション)を引き起こし、地域の産業振興に寄与する次世代のビジネスリーダーを養成する。

【地域産業創出コース】

地域資源(農業・自然・文化等)の価値を理解し、地域資源を活用した新商品の企画、ビジネスの新展開、様々な切り口からの地域資源の魅力発信等を通じて地域資源に新たな価値を見出し、6次産業化や観光等の地域の産業創出につなげることができる人材を養成する。

【地域創造コース】

中山間地域における過疎・高齢化、中心市街地衰退等の課題解決や、地域社会の維持発展に向けて、地域における住民の組織やネットワーク、行政制度等について理解するとともに、地方都市・農山村の経済機能、社会機能、環境機能を総合的に捉え、地域活動を有機的に連結し、活性化できる持続可能な地域づくりをトータルマネジメントできる人材を養成する。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

(概要)

地域資源創成学部では、ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に掲げた、地域における新たな成長産業の振興及び地域活性化を企画・実践できる実務的素養を身につけた人材の育成を目的とするため、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成し、教育を実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養科目と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成します。

2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目(大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション、専門基礎)、課題発見科目(専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題)と学士力発展科目を設置します。

3. 専門的な方法論と知識習得のため、専門基礎科目と専門科目を実践実習・専門分野教育の両面から体系的・段階的に設置します。

4. マネジメント力を養成するために必要な科目と、地域の課題や地域資源の価値を複眼的な視点から捉える能力を養成するために「企業マネジメント」、「地域産業創出」、「地域創造」の3つの科目群に分けて、社会・人文科学、及び農学・工学の科目を設置します。

5. 英語での論理展開、ビジネス交渉ができるコミュニケーション能力を修得するための英語科目を設置します。

6. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解

決に取り組む科目を設置します。

7. 獲得した知識や能力を統合し、課題の解決と新たな価値の創造につなげていく実践的な能力や態度を育成するために、演習・実習・卒業研究等の科目を設置します。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知します。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにします。
3. 知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を育成するために、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）、演習・実践を積極的に取り入れた多様な授業形態、指導方法を行います。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにします。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長時間・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
5. 学生が学修目標の達成状況についてエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

地域資源創成学部では、地域資源を活用し新たな価値を創成する企画力・実践力の育成を図り、地域の活性化に不可欠なイノベーション創出に向けたマネジメントの知識と、地域資源の価値を複眼的に捉える視野を持った人材を養成し、実社会で即戦力として活躍できる人材の輩出を目標としています。

1. 求める学生像

地域資源創成学部では地域振興に対して熱意（学問への関心）を持って取り組み、社会科学および自然科学に対する基礎学力（知識・技能）を有し、コミュニケーション能力・表現力と思考力・判断力を持つ人、また学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる強い意思を持った人材を求めています。

2. 入学者選抜の基本方針

1) 一般選抜（前期日程・後期日程）

高等学校までに修得した基礎的な学力と社会科学および自然科学系科目など大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入学共通テストと個別学力検査によって、知識・技能、思考力、表現力、判断力、主体性、コミュニケーション能力、学問への関心を総合的に評価します。

2) 学校推薦型選抜

高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入学共通テストを免除する代わりに、小論文、面接によって多様な能力を総合的に判断します。

小論文では、思考力、表現力について評価します。面接では、提出書類を踏まえて、知識・技能、思考力、表現力、主体性、コミュニケーション能力、学問への関心を審査します。

3) 社会人選抜

社会人に対し、提出書類を踏まえた面接によって、知識・技能、思考力、表現力、主体性、コミュニケーション能力、学問への関心を評価します。

4) 私費外国人留学生入試

外国人留学生に対し、日本留学試験、小論文、提出書類を踏まえた面接によって、知識・技能、思考力、表現力、主体性、コミュニケーション能力、学問への関心を総合的に評価します。

3. 入学までに身に付けてほしいこと

国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、科目を越えて地域を捉える姿勢、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度など、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望ましい。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/system/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	9人	—					9人
教育学部	—	24人	21人	9人	0人	0人	54人
医学部	—	49人	40人	13人	102人	3人	207人
工学部	—	40人	34人	0人	15人	0人	89人
農学部	—	50人	42人	3人	15人	0人	110人
地域資源創成学部	—	12人	9人	4人	0人	0人	25人
教職大学院	—	10人	7人	0人	0人	0人	17人
大学院地域資源創成 学研究科	—	0人	0人	1人	0人	0人	1人
附属病院	—	7人	8人	32人	105人	1人	153人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		221人					221人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://srhumdb.miyazaki-u.ac.jp/search?m=home&l=ja					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
教育学部	120人	129人	107.5%	480人	521人	108.5%	0人	0人
教育文化学部	0人	0人	%	0人	2人	%	0人	0人
医学部	170人	171人	100.6%	900人	923人	102.6%	10人	0人
工学部	370人	371人	100.3%	1,480人	1,564人	105.7%	20人	17人
農学部	285人	298人	104.6%	1,200人	1,256人	104.7%	若干人	3人
地域資源創成 学部	90人	95人	105.6%	360人	378人	105.0%	0人	0人
合計	1,035人	1,064人	102.8%	4,420人	4,644人	105.1%	30人	20人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
教育文化学部	4人 (100%)	0人 (%)	4人 (100%)	0人 (%)
教育学部	115人 (100%)	14人 (12.2%)	98人 (85.2%)	3人 (2.6%)
医学部	173人 (100%)	9人 (5.2%)	51人 (29.5%)	113人 (65.3%)
工学部	356人 (100%)	164人 (46.1%)	179人 (50.3%)	13人 (3.6%)
農学部	284人 (100%)	72人 (25.3%)	201人 (70.8%)	11人 (3.9%)
地域資源創成 学部	96人 (100%)	1人 (1.0%)	86人 (89.6%)	9人 (9.4%)
合計	1,028人 (100%)	260人 (25.3%)	619人 (60.2%)	149人 (14.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>「シラバス作成のためのガイドライン（シラバス作成要領）」（平成 29 年 12 月 18 日宮崎大学教育委員会決定）に基づき、シラバスを作成している。授業開始前に、授業科目に関する基本情報、授業の目標に関する情報、授業内容・方法に関する情報、成績評価に関する情報、教材に関する情報、教員に関する情報、履修に関する情報を記載したものを作成し、学生に周知している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>成績評価を受ける出席要件は、授業回数の 75%以上（医学部では3分の2以上）としている。成績評価基準と成績評価方法は、キャンパスガイド及びシラバスを通して学生に周知し、学期の初回の授業時にも説明している。シラバスに明記された成績評価基準・評価方法に従って、授業への取組状況、レポート、中間テスト、最終試験等の組み合わせにより成績評価を行い、単位を認定している。</p> <p>本学の教育方針として、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）の点検・評価項目の一つに「GPA 制度を導入し、教育の質保証に向けて点検・評価・改善を行う」と定めている。本学では、学生が学習・教育目標を高いレベルで達成するため、学修支援システムの一つである「学習カルテ：履修システム」に GPA を導入し、学生自ら自分の GPA を確認できるようにしている。</p> <p>また、本学では、医学部を除き履修登録に上限を設定し、キャンパスガイド等で周知している。</p> <p>宮崎大学学務規則で卒業認定基準を定めており、本学の教育理念に基づいたディプロマ・ポリシーを策定・公表している。学科等で卒業判定を行い、最終的に学部教授会で卒業に必要な単位数を満たしているか等を確認し、卒業を認定している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
教育学部	学校教育課程	2019 年度以降入学 137 単位 2018 年度以前入学 136 単位	有・無	単位
医学部	医学科	2020 年度以降入学 239 単位 2019 年度以前入学 243 単位		

	看護学科	129 単位		
工学部	環境応用化学科	128 単位		
	社会環境システム 工学科	128 単位		
	環境ロボティクス 学科	128 単位		
	機械設計システム 工学科	128 単位		
	電子物理工学科	128 単位	有・無	単位
	電気システム 工学科	128 単位		
	情報システム 工学科	128 単位		
	工学科	128 単位		
農学部	植物生産 環境科学科	128 単位		
	森林緑地 環境科学科	128 単位		
	応用生物科学科	128 単位		
	海洋生物環境学科	128 単位		
	畜産草地科学科	128 単位		
	獣医学科	195 単位	有・無	単位
地域資源創成学部	地域資源創成学科	2016 年度入学 129 単位 2017 年度 ～2020 年度入学 130 単位 2021 年度入学 128 単位	有・無	単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/place/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
全学部		535,800円	282,000円	17,000円	その他は検定料

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 「学習カルテ：履修システム」を活用した学習指導を行っている。「学習カルテ：履修システム」は本学が独自に開発したシステムであり、学生自らディプロマ・ポリシーに係わる自己の学習の到達度、登録単位、修得単位、GPA、授業科目毎の成績分布を確認し、学習の振り返りを行うことができるようになっている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリア支援と就職支援の2つの支援体制をとっている。キャリア支援では、インターンシップの支援を行っている他、大学独自のキャリア支援として学生の企画力や運営・実施能力を育成することを目的とした「とって元気！宮大チャレンジプログラム」を実施している。就職支援では、就職ガイダンス、個別に応じた就職相談、大学独自の会社説明会、企業・官公庁訪問の職場見学ツアーなどを行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 安全衛生保健センターで急病やけがの応急処置をはじめ、生活習慣病に対するアドバイスや心理・精神的な問題に対するカウンセリング等を行っている。また、実験・研究中や作業中の事故を防止するための啓発活動や各種安全マニュアルの策定等もを行っている。また、学生が学生生活を送る上での様々な問題について相談に応じるため、「学生なんでも相談室」を開設している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F145110111523
学校名	宮崎大学
設置者名	国立大学法人宮崎大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		513人	503人	543人
内 訳	第Ⅰ区分	264人	253人	
	第Ⅱ区分	143人	164人	
	第Ⅲ区分	106人	86人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				543人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	-		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	-		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	-		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)		
年間	-	前半期		後半期

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	47人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	-		
計	50人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。